



2019年度

# 実践力養成型(寺子屋式) インターンシップ プロジェクト紹介 パンフレット



**Begin again**

*Life is not about finding yourself.*

*Life is about creating yourself.*

# 2019年度 実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ エントリーされる皆さまへのMessage

## <挑戦者へのエール>



徳島大学副理事  
COCプラス推進本部推進監  
**山中 英生**

時代は「何を学ぶか」から「どう学ぶか」へと向かっています。答えが見えない問題に果敢に取り組み、答えを切り開く力が求められています。社会の現実を実感する。そして自分で解決することとして、真剣に取り組む。見つけた答えを先輩や現実に問いかける。だめなら、また試す。**このインターンシップはそんな挑戦に溢れています。**この挑戦ができる君を社会は待っています。はじめましょう！

当社は昨年初めて徳島大学さんのこのインターンシップ（以下ISP）に参加しました。約10ヶ月にも及ぶISPは当社でも初めての経験でしたし、実はみなさんと同じく私達も不安があったんですよ(笑)

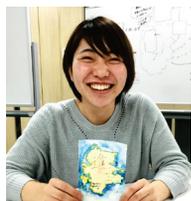
このISPと他のISPの明確な違いは、みなさんが得られる経験の質と量、目標とする成果物の完成度が他と比較にならないくらい高い点です。企業の課題解決が成果物に設定されるため、参加企業も本気で関わります。学生のうちにこれほど濃い体験ができるISP、これほど素晴らしい経験ができる大学は他にないと思います。その分悩むことも辛いと感じることもあると思いますが大丈夫！一緒に取り組む仲間、頼れる先輩、そして大学の先生方やCOC+のみなさんが必ずあなたの傍にいてくれます。

ISPが終わった1年後、みなさんには心地よい達成感と仲間との絆、講義だけでは絶対に得られない経験と社会とのコネクションが残るはずですよ。みなさんも「参加して良かった！」と必ず感じてもらえると思います。

みなさんとお会いできることを私達も楽しみにしています！



株式会社NDK  
代表取締役社長  
**久米 智之**



2017年（一社）Disport ISP生  
総合科学部社会総合科学科4年

**山川 真生子**

私たちは何のために大学で学ぶのでしょうか？  
私は2年生の時このインターンシップに参加し、3年生の時はインターンシップ生のサポートをさせていただきました。その2年間で本当にステキな社会人の方、どこにいても私に力をくれる仲間に出会い、“何のために大学で学ぶのか？”その問いの確かな解が私の中に生まれました。  
ステキな社会人の方、仲間に出会いにぜひ一歩踏みだしてみてください。

## <挑戦を終えて得たもの・見えたもの>



2017年  
(株)テレコムメディアISP生  
2019年  
総合科学部 人間文化学科卒  
(株)テレコムメディア就職

**福良 奈美**

(株)テレコムメディアにて、コールセンターで身につく力（電話対応やマナー、コミュニケーション力）を整理し、キャリアアップにつながるアルバイト（通称：キャリアバイト）としてアピールすると共に、キャリアアップを目指す若者が継続的に入社してくる仕組みを策定しました。

インターンシップはチームで取り組みましたが、それは4年次の卒論でも同じでした。指導教員やゼミ生と連絡を取りつつ、必要な情報を皆で積極的に共有することで、ゼミの雰囲気もよい状態で、生産性が上がりました。

このように自分がゼミ内で調整の役割を果たせたのは、ここが自分の強みだと、インターンシップを通して自覚できていたからだだと思います。



2017年  
(株)松本コンサルタントHSP生  
2019年  
工学部 建設工学科卒  
(株)大本組就職

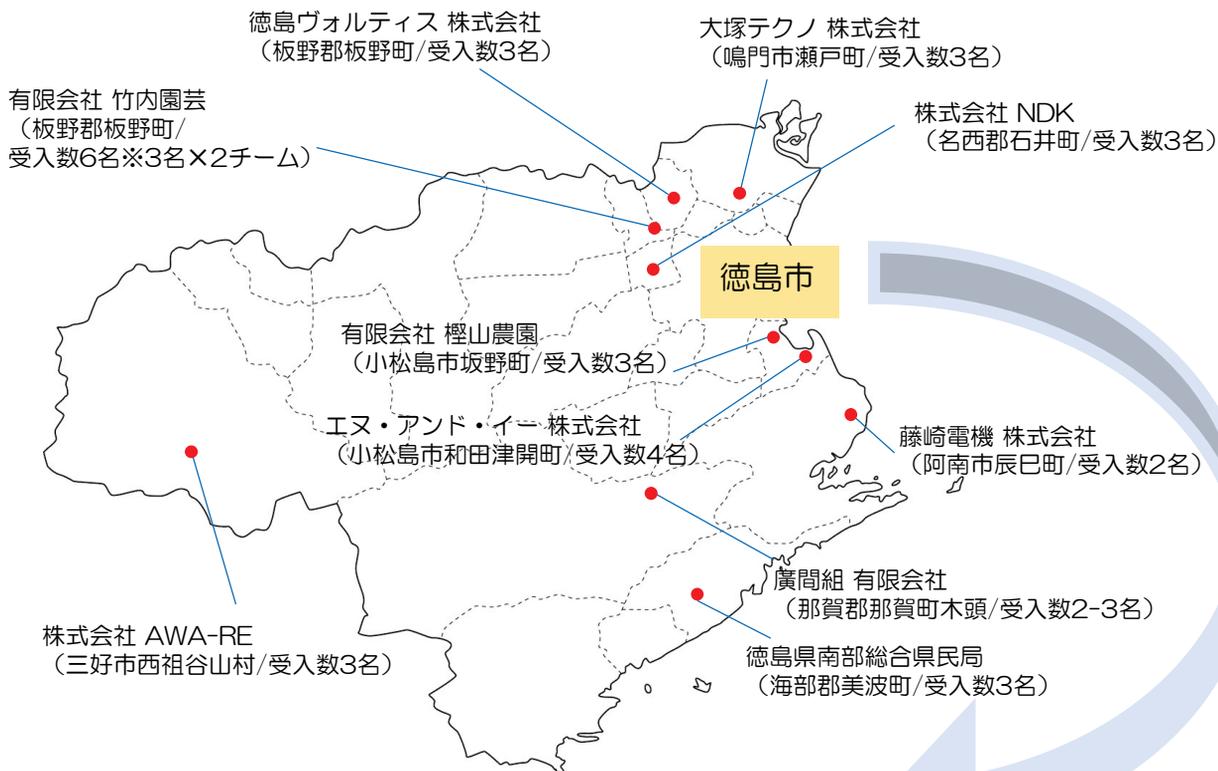
**中島 大樹**

(株)松本コンサルタントでは、公共事業に携わる企業として社会・地域貢献のための新技術の導入（ハード面）に加え、人間力と技術力を兼ね備えた人材の育成（ソフト面）にも力を入れています。そうした人材採用のため、学生のニーズを盛り込んだ「学生目線」の就活用会社説明書を作成しました。

このインターンシップは長期間で課題も難しく大変なものでしたが、やりきることによって多くのものを得ることができ、今後の活動の自信につながりました。

やりきの中で得られたものの1つとして、自分が目指すべき人物像があります。このインターンシップを行い、社会に出る前に多くの社会人と出会ったことで、社会人としての在り方が見え、そこからその在り方に近づくための目標が見えました。

# 2019年度 実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ 活動拠点一覧



詳細はCOC+推進本部  
事務局Facebookから  
チェックできます。

# Q. 実践力養成型(寺子屋式)インターンシップとは？

## このインターンシップのポイント

- ① 「入社数年後でも携わる機会がない仕事を学生のうちに経験することができる！」  
各企業の**重要度の高い**経営課題から抽出されたプロジェクトであり、**数年先の企業の未来を創る仕事**に挑戦することができます。
- ② 「挑戦する仲間と出会う！」  
一つずつ与えられた課題を解決し、壁を乗り越えていくために**学部学年関係なく切磋琢磨しあい**、その中で**やり切った達成感**や**チーム作りの大切さ**を学びます。
- ③ 「1つの課題を解決する方法が学べる！」  
このインターンシップは、ただやるだけでは絶対にゴールできません。  
チームで課題の**解決方法を調べ、仮説と検証を重ねながら、考え実践すること**で進んでいきます。
- ④ 「普段は会えない多くの社会人と出会う！」  
新しい**価値観**にたくさん出会います。その中で**自分の未来の社会人像**が少しずつ見えてきます。

## インターンシップ年間スケジュール

5月 9日(木) 10日(金) エントリーシート書き方講座  
15日(水) 17:00 エントリー締切

6月 14日(金) 第1回事前研修  
21日(金) 第2回事前研修  
27日(木) 第3回事前研修  
28日(金)

7月

8月 上旬~中旬 プロジェクト開始

9月 24日(火) ~30日(月) 後期履修登録

## インターンシップ準備期間

エントリーする  
【5月15日(水) 17:00締切】

受け入れ先との  
マッチング  
【5月中旬~5月下旬】

事前研修を受ける(必修)  
【6月14日(金)/21日(金)/  
27日(木) 28日(金)】



1チ  
学生

ドン(各インターン担当教員)・コーディネーター  
持っている知識や知恵でインターン活動をサポート

エントリーシートの入手/提出場所  
徳島大学地域創生・国際交流会館  
3階 cocプラス推進本部

エントリー締め切り後、  
プロジェクトごとに  
日程調節を行い、  
随時受入先担当者さんとの  
面談を実施

インターンに参加する前に、  
事前研修を随時3回実施 (必修)

6月中旬 効果測定の実施 (予定)

第1回事前研修  
6月14日(金) 18:30~21:00  
マインドセット  
社会人基本動作研修

第2回事前研修  
6月21日(金) 18:30~21:00  
チームビルディング研修  
プロジェクトプランニング研修

第3回事前研修  
6月27日(木) 18:30~21:00  
28日(金)  
チームビルディング研修  
プロジェクトプランニング研修

※全体を2グループに分けて実施します。  
※研修の内容は変更の可能性があります

※受け入れ先ごとに面談の  
形式・場所・服装は異なります。  
※受け入れ先に対して質問・疑問が  
れば学生の皆さんからも質問しま  
う！

交通手段が  
気になります！



COC+推進本部にて  
随時相談受付中！

- ・エントリーに関して
- ・プロジェクト紹介
- ・エントリー先の選び方
- ・事務的な手続き
- ・履修登録について
- ・このインターンを経験した  
実習生とのコミュニケーション etc...

START

自分から  
動きだしてみよう！



# A.

徳島県内の企業・団体が抱える経営課題に対して、  
 受入企業・団体の担当者と様々な学部・学年の学生がチームとなり、  
 中長期にわたり協働することでミッションの達成を目指すインターンシップです。

## 相談窓口



COCプラス推進本部（総合科学部側・食堂キララに併設の「地域創生・国際交流会館」3階）にて随時相談受付中です。



## 単位について

### ① 単位認定について

教養教育科目「実践力養成型インターンシップⅠ」「実践力養成型インターンシップⅡ」を履修することで単位取得できます。

### ② 単位互換について

「短期インターンシップ」及び生物資源産業学部の「インターンシップ(専門科目)」でも単位互換されていますので、同様に単位取得が可能です。

### ③ その他

毎年、自由応募で挑戦される学生の方も多くいらっしゃいますので大歓迎です。過去3年間でインターンシップに参加学生した133名の学生のうち、43名(約32%)が自由応募でチャレンジしています。

10:00 **10月5日(土) 中間報告会**    **11月**    **12月** 上旬 プロジェクト終了 中旬 成果報告書の作成    **1月** 下旬 最終報告会 下旬 学生向け振り返り会

**チーム**  
受入先担当者

ポスター  
パート!

＜中間報告会・最終報告会＞  
 自分がこのインターンで何を学んできたかを「ポスター作り」と「発表」を通して再確認できる！  
 ほかのチームから学ぶことも多く、そういった中で今後自分たちは何をしていくべきか良くするためには何が必要かが見えてくる。

＜学生向け振り返り会＞  
 1年間を通して、何を頑張ってきたかを他の学生やCOC+の方たちと振り返り知恵とすることで  
**アピールポイント**  
**足りないところ**  
 今後やってみたいことが見えてくる。



振り返り会

FINISH

中間報告会

最終報告会

乗り越えていか  
考えていこう!

1つつ!  
コツコツ!

GOAL

どのくらい?

いつまでに?



# Let's Challenge

新たな挑戦へ

# 2019年度 実践力養成型インターンシップ プロジェクト一覧

P.7

株式会社 AWA-RE(アハレ)  
地域をもっと面白く！  
～わくわくハウス「Matba」～



株式会社 QLIP  
プログラミング教育が切り拓く  
子どもたちの未来

P.9

P.11

有限会社 檜山農園  
事業化された農業を営む  
これからの経営スタイルを確立しよう！



株式会社 NDK  
地域になくってはならない企業を  
目指して！

P.13

P.15

エヌ・アンド・イー 株式会社  
人と自然を技術でつなぎ、  
地産地消・地元地域の  
さらなる活性化を目指す (フェーズ2)



一般社団法人 大学支援機構  
地域活性化のために  
大学とクラウドファンディングの  
果たす役割を創出しよう！

P.17

P.19

廣間組 有限会社  
木頭に根ざし、木頭を活かす事業の  
さらなる開拓に挑戦しよう！



藤原塾  
学習塾のニューステージへ！  
～徳島大学発学生ベンチャーの挑戦～

P.21

P.23

藤崎電機 株式会社  
藤崎電機のさらなる挑戦！  
～新規事業領域への挑戦～



株式会社 農家ソムリエ～ず  
若手農家(担い手)の育成と  
徳島県産品のブランディング

P.25

P.27

株式会社 テレコメディア  
これからの「はたらくのかたち」を  
みんなで考え築いていこう！



大塚テクノ 株式会社  
健康戦略を考える！  
生き活きと働く為の職場づくり

P.29

P.31

有限会社 竹内園芸  
サポートサービス体制構築  
(2nd stage)



一般社団法人 イーストとくしま観光推進機構  
地域に誇りと元気をもたらす  
観光戦略

P.33

P.35

徳島県南部総合県民局農林水産部<美波>  
「きゅうりタウン構想」の実現により  
地域を活性化せよ



徳島ヴォルティス 株式会社  
公共財として  
ホームタウンの活性化に貢献する

P.37

P.39

一般社団法人 徳島新聞社/阿波おどり会館  
新しい視点で  
もっと“まち”を元気に



# 地域をもっと面白く！ ～わくわくハウス「Matba」～

株式会社 AWA-RE(アハレ)

徳島県美馬市脇町大字猪尻字若宮南131番地2号（会社住所）  
徳島県三好市西祖谷山村今久保175番地（活動拠点）

## どんな会社？

当社は2018年4月に当時地域おこし協力隊として四国の真ん中「にし阿波」と呼ばれるエリアに活動拠点を持つ有志3名で設立しました。自らが産業創造の触媒となることを志していくことを目的とし、理念：「経世済民」の原点に立ち、地域の歴史文化を伝え継ぎ、人と人を繋ぐ架け橋となることを目指しています。

地場産業に新しい価値を与える触媒として、ツーリズム事業、教育事業、エンジニアリング事業の3つの事業を中軸に展開しています。

ツーリズム事業では、ゲストと地域住民に共感が生まれる旅行体験の提供、教育事業では、持続可能性をテーマとした学生・社会人向けの研修コーディネート、インダストリー事業では、ICTを活用した社会課題の解決に取り組んでいます。



## チャレンジしていることは？

今期、教育事業の一環として、西祖谷に新しくゲストハウスをオープンする運びとなりました。

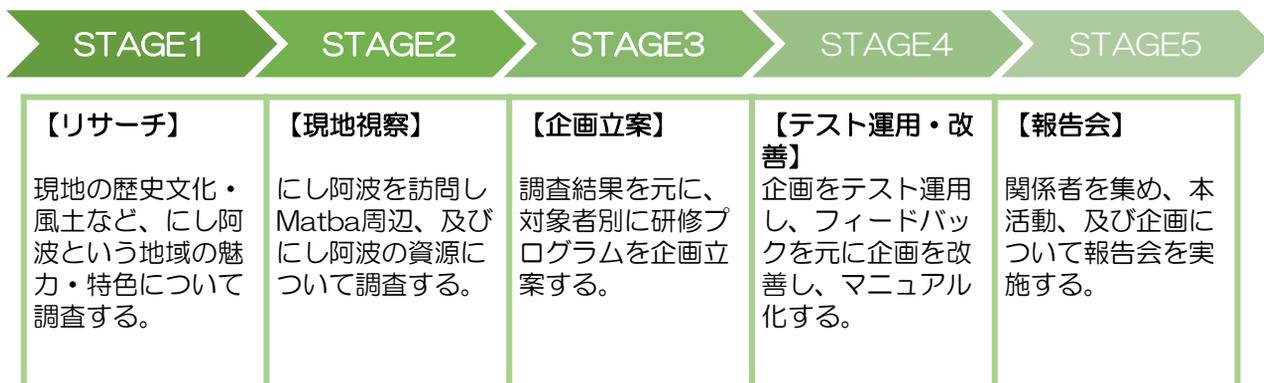
祖谷地方の歴史は古く、また近年では世界農業遺産に登録された傾斜地農法や独特の食文化が外国人にも好評で海外からのインバウンド観光も盛んになり、今後はこれら交流人口の増大が期待できる地域です。

そのような中で当該地域で古くからに言い伝えのある古民家を借り受け、リノベーションしてオープンしたわくわくハウス「Matba(的場)」は、「地域をもっとおもしろく」をコンセプトとして、様々な観光客を受け入れることのできる宿泊施設でありつつ、地域特有の独特の歴史や文化、慣習といった資源を活かした国内外、老若男女を問わず、学びと経験を享受しあえるサービスの開発や社会課題の解決などを行う拠点としての機能を果たしていこうと考えています。

この価値創発のコンテンツ(プログラムの中身)を開発・運用し、さらなる交流人口の増大と関係の深化をめざして世界各地の教育機関や企業の受け入れを行っていこうと考えています。



# わくわく研修プログラムを開発しよう！



## GOAL (到達目標/成果物)

- 研修プログラムが対象者別に整備されている
- 研修プログラムが滞りなく運用されている
- 研修プログラム実施マニュアルができています



## NEXT STEP

- にし阿波の資源を活かしたサービス開発および社会課題解決が加速化している
- これまで以上に様々な人たちが、にし阿波に深い関心を寄せ、にし阿波で学んでいる

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>

株式会社AWA-RE  
取締役  
井上 琢斗



### <ドン (学内メンター)>

企業や地域づくりの“現場”に入っていくことは様々な経験になると同時に多くの責任を伴います。またその責任の重さが良い経験を生み出す、とも言えます。また、これまでは自分に合う／合わないという感覚で人間関係を創ることが出来たかもしれませんが、実社会では当然様々な人と“関わらなくてはならない”ケースも多々あります。世の中には様々な性格やキャラクター、考え方を持った人が増すので、時折ぶつかることもあると思いますが、それも含めて“経験”だと考え、前向きに捉えることが大事でしょう。



徳島大学 大学院  
総合科学部 准教授  
田口 太郎

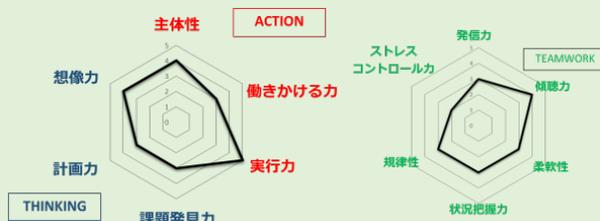
「I」や“You”ではなく“We”で取り組むプロジェクト」

スタートアップの段階なので、目まぐるしいスピードで日々状況が変化します。

メンバーもそれぞれプロジェクトを抱える中で、お互いの得意な部分を活かして相互支援しながら 事業に取り組んでいます。

皆さんとも是非チームの一員として一緒にプロジェクトを進めて行くことができればと思います。

### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力リーダーチャート>



# プログラミング教育が切り拓く子どもたちの未来

株式会社QLiP

徳島県徳島市上助任町三本松371

## どんな会社？

新しい時代に活躍できる人材の育成を目指し、“ICT教育”“心の教育”“論理的思考の育成”の3本を柱に教育事業を展開する株式会社QLiP（クリップ）。その中核となる「クリッププログラミングスクール」では、“ICT教育”を中心に離職者向けの職業訓練（情報系訓練）などの社会人講座を始め、小中高校生を対象にしたプログラミング講座を実施しています。今後社会において必須のスキルとなるプログラミングの普及・教育に努めています。

Qはクエスト（探求）、Lはロジック（論理）、Iはイシューソルビング（問題解決）、Pはプレゼンテーション（発表・発現）を意味します。これまでの詰め込み型授業ではなく、HOW（どうして）とWHY（なぜ）を学ぶ能力を大切に、徳島の子ども達が世界に通用する人になってほしいと考えています。

プログラミングは子どもが楽しく学ぶことを通じて自ら考え創造する力を養うことができます。

徳島の多くの子ども達がプログラミングを学ぶことによって、未来を切り拓く力を身に付けてもらいたいと願っております。



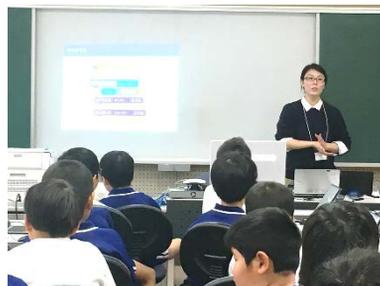
## チャレンジしていることは？

2020年に必修となるプログラミング教育に向けて、教育委員会をはじめ教育機関は指導方法について様々な検討、模索を行っています。小学校の教育現場ではプログラミング教育をどのように行っていけばいいのか、まず何から始めればいいのか分からず手探り状態が続いています。

そうした現状を踏まえ、「プログラミング教育の確立」と「プログラミング教育の普及」を目指す当社では2016年度より徳島大学と協働でプログラミング教育の普及に努めております。2017年度には石井小学校5年生を対象に実証授業を実施し、2018年度には石井町内の小学校3校の小・中・高学年及び牟岐小学校の5年生を対象に模擬授業を実施しました。

今年度は、石井町においては小学校教員を対象としたプログラミング授業実施のための研修プログラムを開発することでより実効性の高い石井町スタイルの教育プログラムを確立すること、牟岐町では小学校・中学校向けの学習指導案の作成を目標としています。

このプロジェクトに参画する皆さんには、高度なプログラミング知識というよりは、「教育・子どもについての関心」「データを用いた企画の提案力・実行力」そして何より、「まだ誰も答えを出せていない問題に対してチャレンジする心」が求められます。今、最先端の授業内容を実際の教育現場で実施できる機会には他には無いので、自分の力を教育分野で試してみたいと思う学生さんには是非チャレンジしていただきたいです。



実証授業の様子

## 2020年必修科目となる小学生向けのプログラミング教育カリキュラムを石井町・牟岐町（自治体）と協働開発する

	STAGE1	STAGE2	STAGE3
石井町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度PJを元に石井町内小学校の低・中・高学年向けの指導要綱を考察する。</li> <li>・小学校教員を対象としたプログラミング教育のための研修を考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石井町内小学校の低・中・高学年向けの指導要綱に基づいた模擬授業を実施する。</li> <li>・小学校教員を対象としたプログラミング教育のための研修を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業の結果を踏まえて指導要綱を再検討し、教育委員会に報告する。</li> </ul>
牟岐町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牟岐町の現地コーディネーターとして（NPO）ひとつむぎと協働し、2018年度PJを元に牟岐小・中学校向けの指導要綱を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牟岐小・中学校向けの指導要綱に基づいた模擬授業を牟岐小・中学校で実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業の結果を踏まえて指導要綱を再検討し、教育委員会に報告する。</li> </ul>

### GOAL (到達目標/成果物)

#### 石井町

- ・小学校教員を対象としたプログラミング教育のための模擬研修が実施される。
- ・石井町内小学校の低・中・高学年向け(3種類)の指導要綱が石井町教育委員会に承認されている。

#### 牟岐町

- ・他の徳島大学生の協力を得ながら、牟岐小学校の低・中・高学年向けに模擬授業が実施される。

### NEXT STEP

- ・自治体との協力に基づいたカリキュラム開発を水平展開できるようになる。
- ・自治体、中間支援団体、民間企業の3者でプログラミング教育を展開・実施することが可能になる。
- ・プログラミング教育のカリキュラムを徳島大学生と(株)QLiPで共同開発可能な仕組みを作ること、牟岐町のプログラム教育の継続的な発展可能性が見込める。

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>

株式会社QLiP  
情報責任者  
江本 大輔



小学校でのプログラミング教育導入を来年に控え、教育現場はカウントダウン状態です。「どう教えるのか」「何を教えるのか」と様々な問題はありますが、「教育」は未来を考える上で必要不可欠です。今注目されている「教育」という分野で、最先端のコンテンツとなる「プログラミング教育」。EdTech分野で仕事をしたいと思っているあなた、教員を目指そうと思っているあなた。実際の教育現場でプログラミング授業を行う機会は今後めったにないチャンスです。クリップと未来の学びについて一緒に考えましょう。

### <ドン（学内メンター）>

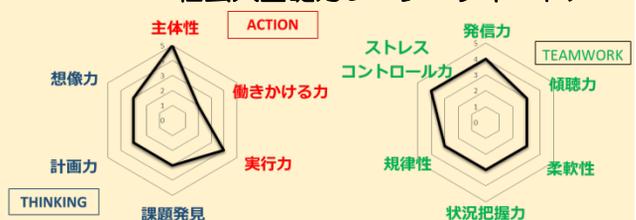
2020年度から小学校でプログラミング教育が必修となることから、その教育方法や指導する人材育成等について、様々な検討・試行が行なわれています。

一方、プログラミング教育とは、単にコンピュータの使い方やプログラムの作り方を教えるものではありません。論理的思考や問題解決能力を養うものであり、他の教科にも大きく関係するものです。このような変革する教育現場に立ち会うことで学生みなさんも大いに学べる機会があります。是非、頑張ってください。



徳島大学大学院  
社会産業理工学研究部  
理工学域 講師  
浮田 浩行

### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



# 事業化された農業を営む これからの経営スタイルを確立しよう！

有限会社榎山農園  
徳島県小松島市坂野町字松木12

## どんな会社？

榎山農園では「榎山農業で世界を幸せにする」という経営理念のもと事業を展開しています。当社の生産・販売品目はトマト、米、麦、大豆、小松菜、しいたけであり、自社の農産物を原料とした加工品の製造および他社ブランドの商品の製造（OEM）および販売も手がけています。また、増え続ける地域内の耕作放棄地を引き受けて地域農業の主たる担い手となると同時に、マーケットは幅広く全国・世界を視野に入れて展開しております。ベトナムやタイを始め、海外での現地生産の実現に向けて、調査等の活動も行っています。



## チャレンジしていることは？

榎山農園では近年、農業をより魅力的かつ発展させるために、事業としての農業経営のスタイルを確立していこうとしています。環境にまで配慮した日本のものづくり哲学と欧米の合理性を融合させ、人、組織、地域やコミュニティ、環境にまで配慮した独自の新しい農業法人としての確立を目指しています。

榎山農園は過去3年に渡って本事業プログラムに参画しています。これまで、インターンシップを通じて地域人材の育成と事業体制の確立に向けた経営課題の解決を行ってきました。

2016年度には、ホームページの作成を通して経営理念を明文化・可視化しました。2017年度には中期経営計画の作成を通して経営方針・ビジョンを提示および共有し、これらに基づいて、2018年度は“組織体制の確立”と“社内の人材育成”に取り組むことで、榎山農園の事業化、組織化を行いました。

このような流れの中で、今年度は、昨年度までに策定された組織体制をより機能させるため、榎山農園次期リーダーの受入担当者がみなさんと一緒に取り組みます。



# 5Sを定着させる仕組みを作り、経営を効率化せよ

STAGE1	STAGE2	STAGE3	STAGE4
<p><b>【社内リサーチ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 榎山農園の現状を調査した上で、5Sの実施に当たって必要な情報について現場調査、社員のヒアリング等リサーチを行う。</li> </ul>	<p><b>【企画立案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 榎山農園に合った5Sの導入方法、定着の仕組み、および、5S定着を通じた経営効率化案を企画する。</li> </ul>	<p><b>【テスト運用・改善】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企画をテスト運用し、効果を測定する。</li> <li>・ 結果を元に、新たな企画を提案書にまとめる。</li> </ul>	<p><b>【報告会・ワークショップの実施】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 榎山農園における5Sの実施の意義が社内に広く理解され、5Sが実施されるよう、報告会を開催する。</li> <li>・ 5Sの実施、および定着を図るための仕組みについて、社内でワークショップを行う。</li> </ul>

※5S：整理、整頓、清掃、清潔、しつげに組織をあげて取り組み、経営管理を改善する取り組みのこと。

## GOAL (到達目標/成果物)

- ・ 榎山農園に適した5Sの導入・定着方法が策定されている。
- ・ 5Sを行う意義が社内で理解され、施行するための仕組みが整っている。

## NEXT STEP

- ・ 5Sが定着し、経営が効率化されている。
- ・ 組織体制の運用ができる人材が育っている。

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>

有限会社榎山農園  
フィールド課  
主任  
尾崎将光



現在、榎山農園では整理整頓の習慣があまりされておらず度々仕事に支障がでています。このインターンシップをきっかけに整理整頓を始め社内の環境改善を図り会社の作業効率や意識を変えコスト面まで良くしていきたいと思っています。

自分自身も初めての担当でわからないことが多いですが是非このミッションと一緒にやっていきましょう！

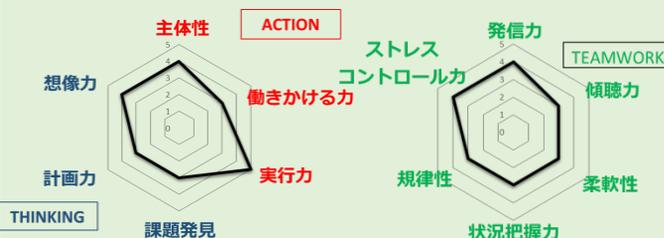
### <ドン (学内メンター)>

榎山農園様は、これからの徳島県農業を牽引していく意欲的な企業であり、COC+事業の受け入れ先として4年目を迎えます。これまで当インターンに参加した先輩達が、事業拡大に伴う経営課題について真摯に取り組んできた実績があります。食料・農業分野に関心があるなら、積極的に応募することをオススメします。



徳島大学  
生物資源産業学部  
講師  
橋本 直史

### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



# 地域になくてはならない企業を目指して！

株式会社NDK

徳島県名西郡石井町高川原字高川原1505

## どんな会社？

1979年創業の株式会社NDKは、主にFA機械※と呼ばれる自動検査機や自動省力化機械を取り扱っています。

経営理念は

- 1.世界一の制御技術、計測技術で、お客様に安全・快適・感動をお届けする製品を作ります。
  - 2.自分達の仕事に誇りと夢を持ち、働く楽しさにあふれた会社になります。
  - 3.地球・自然にやさしいモノ作りを通して、地元活性に貢献します。
- であり、時代の流れやニーズの変化に応じて進化してきました。

また、強みである「検査・計測・制御」を活かしたオーダーメイドの機械装置を製作しており、そのほかにも、電気自動車用の自動充電器等の設計・製造、特注の制御装置、測定機器の設計・製造などを手掛けています。

近畿地区や中京地区、ヨーロッパ、アメリカ、中国、インド、タイ、マレーシアなどへと製品を納入しており、徳島から世界につながる仕事に取り組んでいます。

※ FA(Factory Automation)：コンピュータ制御技術を用いて工場を自動化すること、または自動化に使われる機器のこと。



## チャレンジしていることは？

(株)NDKでは部署間で連携し、お客様のご要望に応じたオーダーメイドの機械装置の設計、製造、据付の全工程に対応することで、設計・製造上の不明点を即座に解決しています。

また、社員の家族、地域住民や学生に対するの知名度・理解度向上のため、情報の社外発信に取り組んでいます。具体的には、社内の出来事・取り組みを綴った「NDKブログ」の発信、社員の家族に仕事の内容や職場の雰囲気を知ってもらうためのお花見を兼ねた「家族参観日」の開催、ランナーおよびボランティアとしてのとくしまマラソンへの参加、企業合同説明会への出展といった取り組みです。

昨年度は本インターンシップにて、主に就活生や就職希望者に向けた広報及び社内ツアーの企画を行いました。これらの活動をさらに拡充させ、周辺の人々に(株)NDKと今まで以上に多様な形で関わりを持っていただき、その関わりをより強固にすることで、より多くの人々と協働できる会社を目指していきます。



## (株)NDKのパフォーマンスを可視化し 人と地域に貢献できる仕組みを考察せよ

STAGE1

STAGE2

STAGE3

STAGE4

### 【(株)NDKの可視化】

<p>【社内リサーチ】 (株)NDKの全貌について情報収集、およびヒアリングなどのリサーチをする。</p>	<p>【情報の可視化】 (株)NDKの全貌をA3用紙1枚に可視化する。</p>	<p>【ブラッシュアップ】 可視化した用紙を社員さんに見ていただき、フィードバックをもらう。ブラッシュアップする。</p>	<p>【社内発表会】 社内発表会を実施し、可視化した(株)NDKの全貌について発表する。</p>
---	---	---	--

### 【繋がり仕組み化】

<p>【情報収集】 これまでに繋がっていない人達と(株)NDKが繋がるためにふさわしい既存の「機会」についてリサーチする。</p>	<p>【企画立案】 社内リサーチと情報収集を元に、まだ見ぬ人々と(株)NDKを繋ぐ「機会」を企画立案する。</p>	<p>【テスト運用・改善】 企画をテスト運用する。効果測定を行い、企画をブラッシュアップする。</p>	<p>【社内報告会】 企画とそれを行うことによって期待される効果について、社内発表会を実施する。</p>
---	---	---	--

### GOAL (到達目標/成果物)

- ・(株)NDKの全貌(会社の魅力、組織体制・文化、歴史等)がA3用紙1枚に可視化されている。
- ・既存の機会を活かした(株)NDKとまだ見ぬ多様な人たちがつながる仕組みが3つ提案されている。
- ・(株)NDKと人が繋がる(株)NDKの性質・特徴が挙げられ、それに合った新たな「機会」が企画されている。



### NEXT STEP

- ・より多様な人材が(株)NDKに関わっている。
- ・より広く深く地域・人が(株)NDKとつながる。

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>

株式会社NDK  
代表取締役  
久米 智之



株式会社NDKは、主に大手の工場や事業所で使われる特注の機械を作るBtoBの会社です。製品の大半は国内だけでなく海外にも輸出され、外国との繋がりも多い会社なんです！インターンシップを通じて「こんな会社が徳島にあったんだ！」と、学生の皆さんにNDKという会社を知って頂けたらと思います。新入社員の5年定着率は100%、10年定着率も80%以上という若い社員さんも多い会社です。インターンシップで多くの学生さんと出会えること、私達がこだわっているモノ作りの技術や取り組みに、若い皆さんの考えやエッセンスが加わる事で新しい化学変化が起きることを楽しみにしています！

### <ドン(学内メンター)>

このプロジェクトを進めれば進めるほど、NDKさんの悔れない特徴と魅力や、人と人のつながりが企業を成り立たせていることに気づかされると思います。

皆さんも、社長さんや社員さん、そしてプロジェクトメンバーとともに作り上げる、大学内では得られない新たな発見と、授業と違う形の自身の成長を経験してみませんか？



徳島大学大学院  
社会産業理工学研究部  
情報光システムコース光系  
教授 原口 雅宣

### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



# 人と自然を技術でつなぎ、 地産地消・地元地域のさらなる活性化を目指す（フェーズ2）

エヌ・アンド・イー株式会社

徳島県小松島市和田津開町字北395番地6

## どんな会社？

N&Eは、紙パルプのトップメーカーである日本製紙（N）と総合建材メーカーの大手である永大産業（E）との合併会社で、木質ボード「MDF※1」の製造を行っています。MDFの主原料である「木」は、Sustainable（持続可能）な資源であり、MDFは木のカスケード利用※2におけるマテリアルユースとしての最終ラインとして、未利用資源である製材廃材や間伐材などを有効利用した環境配慮型のエコ素材です。

当社は、国内に流通するMDFの中で、国産木材を主原料に用いている唯一のMDFメーカーであり、その原料の多くは徳島県産木材・四国四県産木材を使用していることから、徳島県及び四国地方における地産地消、地元地域の活性化にも大きく貢献しています。

※1 MDF（medium density fiberboard）：  
中密度繊維板。木質繊維を原料とする成形板の一種。

※2 カスケード利用  
資源やエネルギーを1回だけの使い切りにするのではなく、利用したことで性質が変わった資源や利用時に出る廃棄物を別の用途に使い、その後もさらに別の用途に活かす、というように高レベルの利用から低レベルの利用へと多段階（カスケード）に活用すること。



## チャレンジしていることは？

これまで、当社が製造しているMDFは、徳島県の重点施策の1つである「徳島県産木材利用促進」に大きく貢献して参りました。しかし、そのことはほとんど知られていないのが現状です。

昨年度は、当プロジェクトにおいて、「徳島県産木材利用促進」の活動を軸に、小松島市及び徳島県の「木づかい活動」に積極的に取り組み、高い評価と大きな成果を得ました。徳島県が推進している「徳島県産木材利用促進」において、県内消費量のほとんどを占める小松島市。製材・合板・MDFの木質素材メーカーが集積する国内唯一の「木のカスケード利用モデル市町村」である小松島市。「ふるさと名物応援宣言」として「徳島県産木材利用促進」を応援する小松島市。そんな小松島市で「木づかい活動」「木育」をさらに拡大させる取り組みを行います。今回のプロジェクトでは、昨年度行った小松島市での産・学・官連携共同活動(WMICKS：ミックス)をさらに拡大させるために、小松島市内の小学生・中学生及び保護者を対象とし「木づかい活動」「木育」への取り組みをさらに推進したいと考えています。



小松島市での「木づかい活動」・「木育」を通し、N&Eの魅力を発信する  
 — 木づかいCity小松島 WMICKS+プロジェクト —

STAGE1	STAGE2	STAGE3	STAGE4
<b>【現状理解】</b> ・ N&Eを理解する。 ・ 昨年度までの取り組みを理解する。 ・ 小松島市を理解する。	<b>【計画立案】</b> ・ 活動計画の立案。 ・ 小学生・中学生及び保護者の心に響く「木づかい活動」「木育」(案)の作成	<b>【活動実施】</b> ・ 「木づかい活動」「木育」の実施。	<b>【仕組み作り】</b> ・ 活動を定着させるための仕組み、小松島市内での「木づかい活動」「木育」を定着させるための仕組みを考察・提案する。

GOAL (到達目標/成果物)

- ・ N&Eの魅力を理解してくれている「N&Eファン」をつくる。
- ・ 小松島市を魅力、強みを理解し、誇りに思い、小松島市を他の市町村に自慢したいと考える。「小松島ファン」をつくる。
- ・ 小松島市での「木づかい活動」「木育」を3企画実施し、500人以上の広報効果を得る。



NEXT STEP

- ・ 魅力発信により、徳島県産木材の利用促進を牽引できるような将来の幹部候補社員の確保に繋がる。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

株式会社  
 エヌ・アンド・イー  
 取締役部長  
 籠谷 陽介



当社はメーカーとして、モノづくりの観点から、様々な企画を検討したいと考えております。また、今回のプロジェクトを通して、報・連・相(報告・連絡・相談)、納期厳守、段取り八分(だんどりはちぶん)など、ビジネスマンとしての基本的な考え方・取り組み方について、学んでいただけるいい機会にしたいと考えております。熱い情熱をもって、チームが一丸となり、アグレッシブなプロジェクトを展開していきましょう。

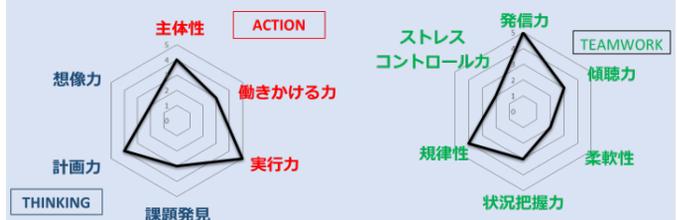
<ドン(学内メンター)>

社会人基礎力として「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が大事だと言われています。社会に「踏み出す」ことは勇気のいることですが、自分の目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く取り組むことができれば、それは大きな自信に変わるはずです!



徳島大学  
 環境防災研究センター  
 危機管理研究部門  
 助教  
 金井純子

<プロジェクトに取り組むことで身につく社会人基礎力レーダーチャート>



# 地域活性化のために大学とクラウドファンディングの果たす役割を創出しよう！

一般社団法人大学支援機構  
徳島県徳島市新蔵町2丁目24番地（日亜会館内）

## どんな会社？

現在、特に国立大学法人は運営費交付金の削減により、財政的に非常に厳しい状況となっています。このままでは、日本の教育基盤が失われ、科学技術を発展させる人材が失われる可能性があり、実際、その傾向がすでに顕著になっています。そこで、各大学が孤立的に奮闘するのではなく、相互に連携し共有できるものは共有することにより無駄を無くし、この危機を乗り越える必要があります。そのために必要なプラットフォームを設置し、大学の研究・教育・社会貢献の活動を支援するための組織として、一般社団法人大学支援機構は設立されました。

現在は、イノベーションを創出し未来をつくるプラットフォームとして、Otsucle「おつくる」のサービスを開始しています。Otsucleでは、クラウドファンディング、クラウドソーシング、研究サポーターズ事業を多くの大学に利用していただける様、日々活動をしています。



## チャレンジしていることは？

クラウドファンディング事業が進んできた中で、募集期間終了後も挑戦者のプロジェクトを見守り応援する必要性を感じていました。また、新しく挑戦する方にも、単独でのチャレンジではなく、これまでの経験などを踏まえた上でサポートチームによる助言や手助けが必要だと考えています。

そこで、自分のやりたい事を実現するために活動を行う方達のコミュニティがあれば、お互いに様々な情報を交換し、サポートしあう事で相乗効果でより自分達の思いを実現しやすい環境を作れると考えました。

今後はこれまで以上にOTSUCLEのサービスを拡充させることに務めるとともに、これまでクラウドファンディングに成功した研究者や学生をはじめとする成功者たちと、これから新しいプロジェクトに挑戦する方々が情報交換できるコミュニティ作りのために、広く学内にも当該事業の推奨者や広報活動を手助けしてくれる方をはじめとする“チーム”づくりに力を入れることも考えています。そうすることでより多くの挑戦者たちが新しいことに取り組むことができる環境を整えていきます。



# みんなのチャレンジを支えて繋げるプロジェクト

## STAGE1

- ・チーム内コミュニケーション
- ・インプット

## STAGE2

- ・具体的なアイデアの創出
- ・プロトタイピングの作成

## STAGE3

- ・実践
- ・コミュニティの維持

Otsucleではクラウドファンディングを通じて、新しいことに挑戦する方々をサポートしています。今回のインターンシップでは、クラウドファンディング挑戦者のコミュニティをチームでアイデアを出し合って創り上げたいと考えています。

インターンシップに参加する学生さんの柔軟なアイデアと行動力に期待しています。

私たちはデザイン思考をレクチャーし、デザインスプリントなどの手法を活用して、アイデアを具体的に実現できるチームを作りプロジェクトに伴走します。

### 求めている人：

コミュニティ作りに興味のある方、自分のやりたいことがある方、地域を良くしたいと思っている方、CFをやってみたい方、自分の挑戦を周りに伝えたい方、友達や知り合いを応援したい方

### こんなキーワードに興味がある方

- ・恩送り ・パイフワード ・オンラインサロン ・社会起業家
- ・地域貢献 ・地域交流 ・仲間づくり ・サポータークラブ

## GOAL

クラウドファンディング挑戦者コミュニティを作る。

※挑戦者コミュニティとは

「クラウドファンディング」を理解し活用、運用、情報発信できる、新しい事に挑戦する方達の集まり（共同体・交流の場が創られている状態）

## NEXTSTEP

コミュニティを永続的に維持する。

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>

一般社団法人  
大学支援機構

橋爪 太



クラウドファンディングを行う事で、3つの効果があると言われてしています。それは、お金が集まる事、PR効果がある事、そしてコミュニティができる事です。ほとんどの方は、お金を集めるための方法としてクラウドファンディングを認識していますが、それだけでは最大限にクラウドファンディングを活用できていない事にはなりません。私達は、コミュニティというものを考え、作るというゴールに向かい活動を始めようとしています。新しいコミュニティビジネスに挑戦する私達のチームに是非皆さんも参加してください。

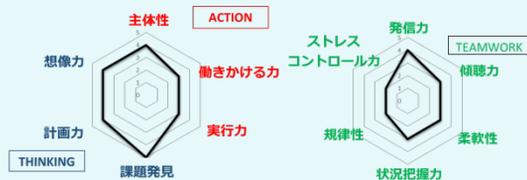
### <ドン（学内メンター）>

人間ははるか昔から様々なコミュニティを創ってきました。そして、それらのほとんどが時代の流れによって消えてきました。多くの人たちがインターネットで繋がり、その繋がり力を個人が享受できる「今」という時代で、クラウドファンディングという「挑戦」のために必要なコミュニティはどのようなものでしょうか？そしてそれはどのようにすれば永く維持していくことができるでしょうか？ぜひ一緒に答えを探しましょう！



徳島大学教養教育院  
イノベーション教育分野  
准教授  
北岡 和義

### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



# 木頭に根ざし、木頭を活かす事業の さらなる開拓に挑戦しよう！

廣間組有限会社

徳島県那賀郡那賀町木頭出原字イシノモト28-1

## どんな会社？

昭和33年に創業した廣間組（有）は、ダムや道路などの公共土木工事を主体とした地域密着型の総合建設会社です。

那賀郡那賀町木頭にて、地域のライフラインを担う道路改良や災害復旧、林道開設や予防治山を行っており、優良工事として過去5度の表彰を県から受けています。平成23年からは、環境省策定のエコアクション21の認証・登録を機に環境経営に取組み、全国の事業者が参加する環境コミュニケーション大賞においても過去5度の表彰を受けました。

平成27年、環境三大テーマである「低炭素化社会、生物多様性、循環型社会の実現」を推進していくため、「山櫻プロジェクト」を立ち上げました。これは木頭に残存する日本古来の桜「ヤマザクラ」を種から育てて植樹し、種の保全とCO2の吸収固定を同時に図りながら、地域に景勝地を誕生させていくプロジェクトです。

平成28年、廣間組（有）を支える新たな事業として、（株）Wood Headを設立しました。

（株）Wood Headでは、徳島のブランド杉である「木頭杉」を用いた木工製品の企画、製造、販売を主軸とした事業展開を行っています。木頭杉を主とした地域資源を有効活用することで森林の適正な伐採を促し、これにより生じた間伐材などに付加価値を与えることを目的としています。



## チャレンジしていることは？

廣間組（有）は地域密着型の経営を行っており、木頭の振興=廣間組の業績向上であると捉えています。この考えの下、木頭のファンを増やし人と経済の循環を生むことを目指して以下のようにストーリーを持つ商品の展開にチャレンジしています。

①（株）Wood Headにおいて、木頭杉の間伐材を活用した「五稜箸」を発売しました。五稜箸は、那賀町を形成する旧の5町村を稜（山）に見立て地域全体がともに振興する事を願い命名しました。現在は県内土産店等での販売に加え、個人客からのギフトニーズへの対応、那賀町のふるさと納税の返礼品としても展開しています。

②（株）Wood Headにおいて、子供から大人まで参加できる「箸作り体験」を実施しています。木の扱い方から森林の現状までを伝える場として位置づけ、お客様とのリアルなコミュニケーションと関係づくりを大切に運営しています。

③廣間組（有）では昨年までの2年間にわたり、本インターンシッププログラムを実施しました。インターンシップにおいては、木頭を舞台にしたRRPG（リアルロールプレイングゲーム）型ツアーの企画・検討にインターン生のみなさんと一緒に取り組みました。

  
五稜箸



## 五稜箸を超える？ 木頭の素材を活かした商品開発

### STAGE1

#### 【情報収集】

- 木頭という地域、木頭杉、既存の商品について現地調査・ヒアリング等リサーチを行う。
- 地域性、および素材性質を活かした商品開発の事例を研究する。

### STAGE2

#### 【商品開発】

- 商品を企画・開発する。
- 品評会を実施し、フィードバックを元に商品をブラッシュアップする。

### STAGE3

#### 【展示会】

- 商品を一覧できる商品パンフレットを作成する。
- 開発した商品、商品開発のプロセスについて展示会を実施する。

### GOAL (到達目標/成果物)

- 木頭の地域性および木頭杉の性質に合った10品目の商品が開発できており、かつ、製造できる状態にある。
- 商品販売に向け、販促物が整い、営業先の目処がある程度立っている。

### NEXT STEP

- 木頭に関心を持つ人が増える。
- 木頭が活性化される。
- 新商品開発のカルチャーが発展し、ノウハウが蓄積する。
- 社内のWood Head事業への理解が深まり、協力体制が強化されている。

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>

廣間組有限会社  
企画・デザイン・営業  
小林 幸



商品開発は手間ひまのかかる仕事で責任を伴いますが、自分が携わった商品が世に出る喜びはひとしおです。

作り手の視点と買い手の視点の双方を持ちながら、社会に必要とされる商品と一緒に作っていきたくと考えています。

### <ドン (学内メンター)>

様々な条件が悪い地域もかつては日本の屋台骨を支えてきた過去があったりします。長年に渡る人々の営みによって地域の様々な資源や魅力、可能性が育まれてきたとは言えますが、現代のような消費型の社会ではなかなかその価値が上手に伝わっていきません。

那賀町木頭村もそんな“もったいない”地域の一つかもしれません。この木頭地域が持つ魅力をいかに上手にデザインし、外部に発信していくか。なかなか大きく野望に満ちたミッションだと思います。大変なことは多いかと思いますが、大変だからこそ得られる良さもありますので、ぜひチャレンジしてみてください。



徳島大学  
総合科学部 准教授  
田口 太郎

### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



# 学習塾のニューステージへ！

## ～徳島大学発学生ベンチャーの挑戦～

藤原塾

徳島県徳島市助任橋1丁目22番地 清水ビル1階

### どんな会社？

藤原塾は塾長の藤井が「地域での教育格差を減らしたい！」との思いで、徳島大学在学中（学部3年時）に地元である鳴門で中学生専門の学習塾としてスタートしました。その後、徳島大学常三島キャンパス目の前に理数系専門塾として徳島校をオープンし、近くに塾がなくて困っていると話す脇町の農家様とコラボしたオンライン学習塾なども実施しております。

現在は小学生・中学生・高校生と幅広い学年の学習指導を行い、1対1の個別指導学習や中学生・高校生の数学・英語・理科のクラス授業、算数が苦手なお子様向けの、「楽しく学ぶ算数教室」など幅広い学年と受講科目に対応しております。また、小学生に「もっと科学に興味を持ってもらい！」と考え、出張科学実験教室なども行なっております。

藤原塾では希望校に合格するための「受験教育」から、勉強を楽しいと感じてもらえる「学習環境作り」、成績の伸びやすい素地を作る「脳力開発」なども行なっております。



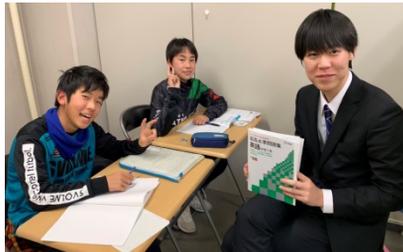
### チャレンジしていることは？

#### 藤原塾のニューステージ「大学生のための学びのプログラム開発」への挑戦！

藤原塾では今までに多くの大学受験生を指導してきましたが、卒業生が長期休みに塾に挨拶をしに来てくれた際に、「自分の将来の夢を達成するために大学生活中に何を勉強しておいた方がいいのかわからない」、「大学では専門知識以外にどのような勉強をしていけば将来に役立つ能力が身につくかわからない」など志望校へ入学したのにも関わらず、多くの生徒様が「将来に対して必要な学び」に関して、多くの悩みを持っていることを知りました。

これまでの学習塾は志望校に合格するための「受験のための学び」に重きを置いていますが、大学入学後は、将来の夢を達成するために自分の能力を向上させる「学び」を学習する必要があり、それを教えてもらえる「教育の場」が不足している現状があります。

そこで藤原塾では、大学生が自分の夢や目標を達成するために必要な「学び」を調査し、学習塾だからこそ実行できる、大学生のための自己の能力をより伸ばし夢を実現するための「学びのプログラム」を提案し、大学に入学した後でも、生徒様の夢の実現に向けてサポートすることができる学習塾づくりにチャレンジしております。



# 学習塾だからできる大学生のための「学びのプログラム」の提案

## STAGE1

## STAGE2

## STAGE3

## STAGE4

### 【調査用紙の作成】

大学生に自分の将来の夢を達成するために必要だと感じる能力が何であるかを見つめ直してもらい、その能力を伸ばすために必要だと考える「学び」を聞き出すための調査用紙を作成する。

### 【調査】

STAGE1で作成した調査用紙を使用し、大学生100名を対象に将来の夢を達成するために今自分に必要だと考える「学び」の調査を行う。

### 【企画立案】

調査結果から目標を達成するために伸ばしたい能力と、それを伸ばすのに必要だと考えている「学び」を精査し、学習塾だからこそ実行できる自己の能力をより伸ばす「学びのプログラム」を提案する。

### 【仮説検証】

提案された「学びのプログラム」によって高められると期待される能力を、それを伸ばしてみたいと考えている大学生20名を対象にプログラムの説明を行い、内容の評価を行ってもらう。

## GOAL (到達目標/成果物)

- ・大学生が夢の達成に向けて今必要であると考えている「学び」を明らかにする。
- ・学習塾だからこそ実行できる、大学生のための「学びのプログラム」の概略ができる。
- ・提案された「学びのプログラム」が対象となる大学生から評価を得ることができる。

## NEXT STEP

- ・今回提案された「学びのプログラム」の中身をブラッシュアップし、実行に移す準備を行う。
- ・藤原塾の新しい顧客領域（大学生）が開拓される。

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>

藤原塾  
塾長  
藤井理



学習塾の役割は志望校に合格させることではありますが、生徒様にとって志望校合格は人生の通過点でしかありません。将来自分の夢を達成するために必要な「学び」を大学入学後に学習することになりますが、私が思っているよりも多くの生徒様が、夢を達成させるために「何を学ぶ必要があるのか」が分からないと感じております。今回このプロジェクトを通じ、大学生の皆様と一緒に、自身が夢を達成するために必要な「学び」が何であるのかを見つめ直し、その「学び」を達成するために、学習塾で何が出来るのかを一緒に考えていきましょう！

### <ドン (学内メンター)>

本プログラムは今までにない教育モデルを創出しようとしています。汗をかき、やりきった時の達成感ももちろんですが、同じ大学生にとって互いにキャリアを学びあい新しい活動を興すための功績を遺す。そんな新しい居場所・語り場を自分たちで創りたくありませんか？好奇心・創作心あふれる子ども時代、ワクワクしながら秘密基地を創ったときのように。原点回帰を思い出し、行動することで、自身の潜在化してしまった才能を呼び覚ましましょう。



徳島大学  
高等教育研究センター  
キャリア支援部門長 講師  
島 一樹

### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



# 藤崎電機のさらなる挑戦！

～新規事業領域への挑戦～

藤崎電機株式会社  
徳島県阿南市辰己町1番地38

## どんな会社？

藤崎電機株式会社は、1973年、工場・発電所・施設の電気制御工事からスタートしました。以来、「創造性とチャレンジ精神」を会社存立の原点と掲げ、独自の技術の開発を続けてきました。

結果、オリジナル電機機器の製品化に成功、メーカーとしての歩みを始めました。その後、製造自動化装置等の製造を手掛けることにより、お客様のご要望を形にする「エンジニアリング」にも事業が拡大していきました。

近年、地元・徳島の課題を解決したいという思いから、バイオマス発電事業の開発をスタートしました。徳島県阿南市は現在、放置竹林の広がりにも悩まされています。これを解消するために、ドイツの企業との共同開発を進め、世界に先駆けて竹を使ったバイオマス発電施設を建設しました。

「持続可能な社会の実現」を使命とし、地域の課題に技術力で応えながら、世界で通用する機械を生み出していくこと、そして、お客様の声にエンジニアリングサービスで解決するのが当社の事業の特徴です。



## チャレンジしていることは？

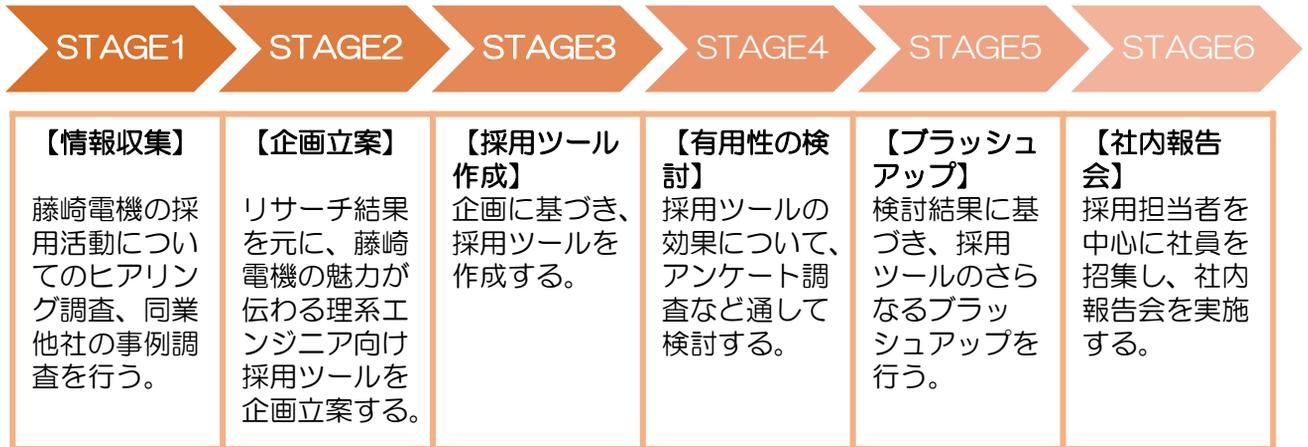
### さらなる事業領域の拡大、そして、海外へ！

藤崎電機を母体とする藤崎グループは、工場やプラントの計装工事から、家庭用太陽光発電を手掛けるようになりました。その後、メガソーラー、バンブーバイオマス、大型風力発電と自然エネルギー発電所の開発から設計、ファイナンス、施工、運営、O&Mとトータルソリューションを提供する企業グループへと歩みを進めてきました。

また、自然エネルギー発電所の開発から企画・設計・ファイナンス・建設・運営・メンテナンスまでの全工程を手掛ける株式会社ガイアパワーを始め、事業領域の広さは当社の強みであり、今後は、名実ともにグローバル企業としてのポジションを確立するため、その担い手となる人材を広く採用し、その経歴に関わらず、世界の市場で活躍する人材の育成にも力を入れていきます。



## 未来の理系エンジニアを確保するための 新卒採用ツールの開発



### GOAL (到達目標/成果物)

- 新卒の理系エンジニアを採用するために効果的な採用ツール（動画、パンフレット、企業説明会で使用するPPT、HPの拡充等、適切なもの一つ以上）を開発する。

### NEXT STEP

- 採用において、藤崎電機にエントリーする人が増える。
- 将来の会社を担う人材（理系エンジニア）が採用が促進される。

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>

総務部人事課  
課長代理  
大畠 郁美



現在の採用活動においては、適用範囲が狭く、良い方がいたとしてもその方に会うことさえできていない状況です。そういった方々に少しでも多く藤崎電機を知って頂けるように、より魅力的な会社だと思っただけるように、見せ方の工夫、アピール方法を一緒に考えて頂き、色々なツールを使って広げていきたいと思っております。会社説明動画、募集パンフレットの作成を通じて、やりがいや新しいことに挑戦する面白さを感じて頂けたらと思っています。

### <ドン（学内メンター）>

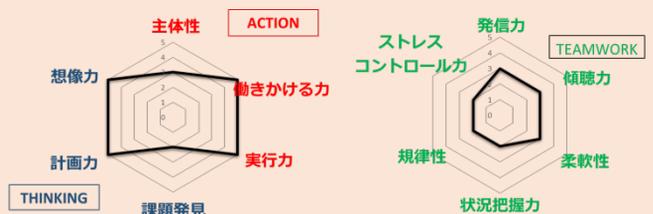
藤崎電機さんは、ベンチャーマインドに溢れ、チャレンジを続ける企業です。多彩な事業内容に見えますが、しっかりとした核を持っています。プロジェクトの目的や進め方が明確な形で示されていますので、間口の広いプロジェクトになっています。

本プロジェクトに参加する皆さんが、行動力と学生ならではの感覚を生かして藤崎電機さんとともに成長することを期待しています。



徳島大学大学院  
社会産業理工学研究所  
情報光システムコース光系  
教授 原口 雅宣

### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



# 若手農家(担い手)の育成と徳島県産品のブランディング



株式会社 農家ソムリエ～ず  
徳島県徳島市川内町平石若宮268-3

## どんな会社？

徳島県のなると金時といえば、さつまいものブランド産品です。なると金時が栽培される徳島県北東部は、土地・気候条件が品種の適性にぴったりと合っています。そのため、鮮やかな赤紫色のきれいな皮色で、ホクホクとして甘味のある王道のさつまいもが出来あがりやすい。

農家ソムリエ～ずは、徳島県で農業をしている若手のプロ農家集団で、なると金時の生産及び販売事業をおこなっています。なると金時の美味しさを支える高い栽培技術を受け継ぎ、さらに美味しいさつまいも作り、そのさつまいもを使った加工食品の開発に挑戦しています。

当社は、これまで農家個別で持っていた栽培技術を共有するだけでなく、より高品質のなると金時づくりのための技術開発にも取り組んでいます。その結果、高いレベルのさつまいもを安定的に収穫することができるようになりました。消費者さまの目線にも立ち、化学農薬や化学肥料をできる限り使わない、安心安全な栽培にも取り組んでいます。また、近年では新たな取り組みとして、香港、台湾、シンガポール、マレーシア等、海外への輸出にも取り組んでいます。現在、国内販売先は6社、海外販売先が4か国となっています。加えて、なると金時の加工及び加工品の販売事業も行っており、代表商品としては、『さつまいもチップスおさっち』（プレーン味・塩味）、『さつまいもペースト』が挙げられます。その他、なると金時の生産技術向上、ブランディングにも取り組んでいます。



## チャレンジしていることは？

近年、上品ですっきりした甘さが特徴の「なると金時」に対して、安価な「安納芋」や「紅はるか」といったねっとりとした糖度の高いさつまいもが注目を集めており、なると金時は市場での販売単価が下落傾向にあります。今後は、更なる生産技術の向上や品質のさらなる向上に努めると同時に、なると金時の新しい価値を見出し、リブランディングすることにより、国内外の販路を拡大もしくは新しい市場開拓を行い、生産者の経営の安定に繋がりたいと考えています。

海外市場においては主に東南アジアや台湾方面に農家ソムリエ～ずとして出荷し、イベントや土地柄に相応した商品(加工品)開発などを行うことで市場傾向は高まりつつあります。しかしながら国内での認知度は変わらず高いものの競合品種の台頭により、かつてのブランド力が薄れてきている、というのが現状です。従って、喫緊の課題として「なると金時」の良さを再度見つめなおし、これからの時代や消費傾向などを含めたユーザーにとって受け容れられる形にブランドを再定義し、市場での競争力を持ち直すための様々な取り組みを行っています。

なると金時という品種のリブランディングと我々若手農家集団である農家ソムリエ～ずだからこそできる“何か”を見つけ実現していくことが現在最も力を入れている課題です。



## なると金時のリブランディング

### STAGE1

#### 【情報収集】

なると金時がブランド  
 製品となった背景（成  
 り立ち、要因）、特徴  
 （外観、味、栄養素）、  
 顧客層や使われるシー  
 ン等の情報を収集する。

### STAGE2

#### 【インタビュー調査】

ブランディング関係者、  
 農家、消費者等にイン  
 タビュー調査を実施す  
 る。

### STAGE3

#### 【情報分析・見える化】

集めた情報を分析し、  
 なると金時ブランドを  
 これからの時代に合っ  
 た形で再定義し、リブ  
 ランディングの進め方  
 について明文化・可視  
 化する。

### STAGE 4

#### 【成果報告会と

ワークショップの開催]  
 ソムリエ～ずメンバー  
 をはじめとする事業関  
 係者に向けて、成果の  
 プレゼンを複数箇所で  
 実施する。



GOAL (到達目標/成果物)

- これからの時代や顧客に受け容れられる形にブランドを再定義し、紙媒体にまとめる。
- 事業関係者に向けて成果報告会が実施される。



NEXT STEP

- なると金時の市場での競争力の向上
- なると金時の国内外の販路拡大
- なると金時生産者の経営の安定

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>

(株)農家ソムリエ～ず  
 代表取締役  
 藤原 俊茂



日本には先人が築いた「世界に誇れるモノ」  
 が沢山あります。しかし、残念ながらその全て  
 がその価値に見合った評価を受けている訳では  
 ありません。今回の活動を通して、日本にある  
 素晴らしいモノをこれからの日本、世界により  
 良い形で発信する力を培って頂けたらと思っ  
 ています。



### <ドン (学内メンター)>

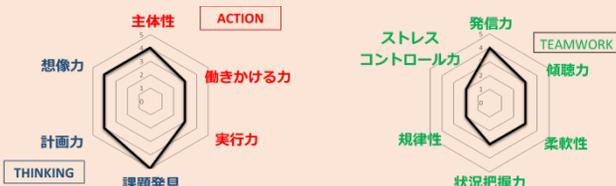
徳島県の名産品である”なると金  
 時”を積極的に販売していこうとする  
 若手の有志農家による企業です。

当プロジェクトでは、マーケティング  
 の奥深さ、より一層の創意工夫の必  
 要性・重要性を実感出来ると思います。  
 一次製品の販売、さらには地域活性化  
 の方策を主体的に立案・模索してみ  
 てください。



徳島大学  
 生物資源産業学部  
 講師  
 橋本 直史

### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



# これからの「はたらくのかたち」をみんなで考え 築いていこう！

株式会社テレコメディア 徳島支店

徳島県徳島市山城町東浜傍示1-1

## どんな会社？

当社は、Tel(通信)、Communication(人)、Media(技術)の頭文字をとってTELECOMEDIA(テレコメディア)と言います。創業以来、ヒューマンサービスを主軸に、通信・メディアを融合し「ヒューマンコミュニケーション」を創造する企業活動を展開して参りました。東京及び徳島に大規模コールセンターを配し、全国の様々な大手企業の通信販売の受注・問合せをはじめとするコールセンター運営を行っています。

また、新たなサービス展開も積極的に行っております。外国人観光客の増加、そして2020年の東京オリンピック開催に向けて、店舗、ホテル等の接客スタッフと外国人観光客との言葉の架け橋となる『多言語電話通訳サービス』を他社に先駆けてスタートしました。

企業の理念は「社会への貢献」です。つまり、革新的なヒューマンコミュニケーションサービスの開発を通じて、雇用促進や人材育成を実施し従業員やその家族も含め、かかわる全ての人に豊かさを提供することです。そこで、人が集まる都市部に運営するのが常識であったコールセンターを、人口減少が課題となっている地域で開設しました。ふるさとコールセンターと呼ばれるこの拠点は、2014年の美波町を皮切りに展開し、現在は東みよし町、板野町、美馬市を含めた4カ所に拡大し、現在170名のスタッフが働いています。地域の雇用促進、特に若者が就職先として選択することによる若者の県外流出をくい止め、地域が元気になる一役になればと考えています。

 TELECOMEDIA



## チャレンジしていることは？

テレコメディアでは、様々な年代や状況をお持ちの方が、その置かれた環境に応じた働き方を選ぶことができ、また当社に関わる全ての方が仕事を通じて成長を実感しながら働ける職場を目指しています。

当コールセンターでは、基本的なマナーやお客様へのおもてなしの対応をする為の様々な研修があります。

2017年度、このような「コールセンター業務で身につく力」を整理してアピールすると共に、キャリアアップを目指す学生が継続的に入ってくる仕組みとして「キャリアバイト」を企画しました。また、2018年度は社会人も学生も一緒に学べる場づくりプロジェクトとしてキャリアバイトの社内浸透をはかると共に、社内講座の拡充・充足に取り組みました。

2019年度はキャリアバイトをより下の世代にも広めるため、小・中・高校生に向けて、学生の段階から「はたらく」とはどういうことが考え、意見交換ができる場として、「働くを考えるカフェ：キャリアカフェ(仮称)」を開きたいと考えています。

このキャリアカフェは今春から始まった「働き方改革」とも緩やかに連動させ、これからの時代のそれぞれのライフスタイルに合った働き方を子供から大人までが和やかに楽しく一緒に学び考えることのできる“PLACE”として地域の皆様にご活用いただけるよう、企画していこうとしています。



# 「はたらく」を考える小・中・高校生対象のキャリアカフェを開こう

STAGE1	STAGE2	STAGE3	STAGE4	STAGE5	STAGE6
<b>【アンケート調査】</b> 小・中・高校生、およびキャリア教育の教員を対象としたアンケート調査を実施し、結果を分析する	<b>【企画立案】</b> アンケートの分析結果を踏まえ、「働くを考えるカフェ：キャリアカフェ（仮称）」を立案する	<b>【プレテスト】</b> 企画のプレテストを実施し、参加者の感想なども参考にしながら評価及び改善点の検証を行う	<b>【再試行】</b> 検証結果を基に、再度キャリアカフェイベントを実施する	<b>【社内協議】</b> 社内会議を行い、当該事業の説明と期待効果についてプレゼンテーションを行う	<b>【広報を検討】</b> 社内スタッフとキャリアカフェの広報の仕方について検討を行う

## GOAL (到達目標/成果物)

- ・地域の小・中・高校生が「はたらく」とはということかを考え、意見交換ができる場(社交場としてのカフェ)のモデルケースができている
- ・キャリアバイトを選択肢に持つ高校生・高卒生が増える
- ・社内にキャリアカフェに興味を持つ(サポート・参画、どちらでも)スタッフが3名以上存在する

## NEXT STEP

- ・地域(教育機関)に向けたキャリア教育(地域貢献)及び地域との繋がりの強化
- ・既存キャリアバイトへの間口の拡大
- ・テレコメディアのキャリアバイト生(高校生及び高卒生)採用の促進

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>

株式会社テレコメディア 人事部



部長  
葛籠 枝美



平島 夏美

私たちは2年間実践力養成型(寺子屋式)インターンシップを通して学生さんと一緒に「キャリア×アルバイト」働いて何だろう?と考えてきました。

3年目の今回は徳島県内の様々な年代の方が働くことについて考える新たなきっかけを生み出したいと考えています。

なぜ働くのか、どう働くのか、どこで働くのか、働くについて一緒に考える機会を作ってみませんか。

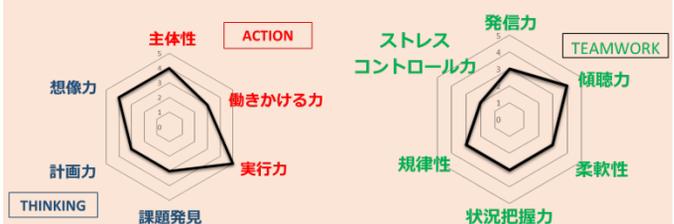
### <ドン(学内メンター)>

学習による知識の蓄積という正課内活動ではなく、本インターンシップ・プログラムでは多様な経験を積みながら教訓・知恵を養うとともに個々人の才能開発など、体験してはじめて分かることがたくさんあります。自分のやりたいことを本プロジェクトに関連付けながらプロジェクトを完遂したとき、その答えが実感できるようになると思います。共にがんばりましょう!



徳島大学  
高等教育研究センター  
キャリア支援部門長 講師  
島 一樹

### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



# 健康戦略を考える！

## 活き活きと働く為の職場づくり

大塚テクノ株式会社

徳島県鳴門市瀬戸町明神字板屋島120番1

### どんな会社？

大塚グループでは、食品・飲料だけではなく、新薬の開発、医療機器の開発などの医療関連事業も行っています。当社はこれら医療関連の領域にて、合成樹脂成形製品を「高い技術力」「クリーンな環境」「優れた品質」のもと製造し販売を行っています。

当社の歩みは、医療品の輸液容器プラスチック部材の開発・製造から始まりました。現在では、国内だけに留まらず、海外へも生産拠点を拡大しています。

また、医療品のプラスチック製造で培った成形技術を活かし、LEDパッケージ製品の製造やリチウムイオン電池の安全装置の製造など、電子分野への参入にも成功しています。



### チャレンジしていることは？

大塚グループは“Otsuka-people creating new products for better health worldwide”（世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する）という企業理念のもと、「大塚だからできること」「大塚にしかできないこと」を日々実践しようと努めています。健康に携わる大塚グループとして、お客様はもちろん、大塚テクノで働く社員一人一人に対しても、より豊かで健康的に暮らせるよう願っています。

近年、「健康経営」の考え方が広がっています。「健康経営」とは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員等への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上や株価向上につながると期待されます。例えば、企業は従業員の健康を増進することで、医療費を削減できるだけでなく、生産性の低下の防止や企業の収益性向上など、さまざまな効果が期待できます。企業の利益追求と働く人の心身の健康維持を両立することが、従業員個人の生活の質の向上のみならず、企業活力を高めることにつながります。

当社は3年前から本事業インターンシップに取り組んでおり、（2016年度 人材採用パンフレットの作成/2017年度 健康マイレージの策定/2018年度 健康保険書類検索Bookの策定）特に2016年度からは「健康」と「業務効率化」をテーマとして取り組んで参りました。

今年度は、2018年度の内容からもう一步踏み込んだ取り組みを行います。心身ともに健康であり継続的に企業業績を向上させる社員の育成を人事戦略上の重要課題と位置付けておりますので、大塚テクノで働く社員の状態を把握し、健康に働く為のより具体的なアプローチ方法を企画・立案し、実践に移して行きます。

## 健康戦略を考える！

### STAGE1

健康診断の結果や社員へのヒアリング調査から、大塚テクノで働く社員の健康状態を把握します。何故そのような結果になっているのか、正確に現状把握を行います。

### STAGE2

各々の健康状態と生活環境・業務内容・年齢・勤務地の地理的要因などを分析し、健康に働くための条件を検証します。  
また、大塚テクノで現在行なっている職場の環境向上の取り組みを整理しながら、さらに専門家から効果的なアプローチ方法などをヒアリングし、様々な情報を収集します。

### STAGE3

分析結果及び専門家からの意見をもとに、社員の健康状態を改善するため、アプローチ方法を企画・実行します。

### GOAL (到達目標/成果物)

アプローチ方法の企画、立案及び実施

### NEXT STEP

健康に対する社員の意識向上が図られ、健康診断の結果に対しても、数値目標を掲げて取り組むなど、好循環が生まれる。その結果、長期的には企業価値を高める結果となる。

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>



大塚テクノ株式会社  
人事総務部 係長  
中山 真一



大塚テクノ株式会社  
人事総務部  
吉本 麻紀

### <ドン (学内メンター) >

Coming Soon...



### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



社員の価値観の多様性を受容した制度設計を行った会社は社員のモチベーションを引き出すことができます。将来、『人』の心・体に対する取り組みを含めた人事戦略などに興味のある方は、一緒に取り組んでみませんか？

# サポートサービス体制構築(2nd stage)

有限会社竹内園芸

徳島県板野郡板野町大寺宇大向北88番地1

## どんな会社？

当社は1982年設立の育苗（苗を育てる）会社です。「農業のパイオニア」として常に5年先、10年先を見据え、生産・販売計画をトータルで行い、国内3県4拠点で、キュウリ、トマト、ナスなどの果菜を中心に約60品目2,000品種の野菜苗の生産販売事業を行っています。

農業において育苗は重要な工程であり、手間のかかる難しい作業です。そこで農家さんに代わり苗を作るのが、私たち育苗業者。私たちの仕事とは、いわば農家さんの野菜作りを支える仕事。現代農業において、育苗は必要不可欠なものなのです。

当社の経営理念は、

- ①安心して植えていただける苗作りに挑戦しよう
- ②新しい技術に挑戦し、育苗事業及び農業を改革しよう
- ③明るく、元気のある職場作りに挑戦しよう

であり、モットーは農家さんが喜んでいただける苗を育苗し、提供することです。当社は管理者が一つずつ苗をチェックし、よりよい苗を選別して、出荷しております。また、全国の農家さんのご要望にお応えするため、群馬農場の増築、AIによる最新機械を導入した熊本農場の増築等、生産性の向上のために農場の拡張・充実を図っております。

また、弊社は、平均年齢33歳と若い社員が多く、若い社員たちが新しい会社経営に参画しています。今後は、パソコン、スマートフォンを駆使して環境を整備し、生産効率を上げるとともに、管理者として任せられる人材の育成に力を入れ、農業界に貢献していきます。

## チャレンジしていることは？

現在、野菜苗を育苗して出荷しても、その後農家さんにおいて、どのように生育しているのかの情報を把握しておらず、出荷した苗が良い苗だったのかどうかを、出荷時の苗の状態だけで判断しています。

今後は、定植後の生育状態の情報や意見・要望を農家さんから直接に得て、埋もれていくことの無いよう、その情報をうまく活用していきたいと考えています。

そこで、当社では2018年度のCOC+事業プロジェクトの成果物である、農家さん向けのコミュニケーションシートを導入・運用しておりますが、今年度COC+事業プロジェクトでは、コミュニケーションシートに記載された情報を、社内に必要な部署別（既存営業情報・新規営業情報・生産・流通・研究・その他）に振り分け、情報に基づき会社全体で組織的に改善をはかり、サービスのレベルを上げていく社内体制を整えることと、コミュニケーションをとるための通信ツールを制作することが課題です。

<今年度プロジェクトは、当初は2つのプロジェクトを並行に進めます。>

### プロジェクトA

サービス・サポート×農業で、新しい価値を生み出すプロジェクトです。新しい世界・農業界を創造することを目標として、まずは社内での情報管理体制の構築や組織デザインをすることに興味のある学生さんのチャレンジを歓迎します。

### プロジェクトB

アプリ×農業で、新しい価値を生み出すプロジェクトです。webデザイン、web・スマホアプリ開発に関心のある学生さん、また、農業に関心のある学生さんのチャレンジを歓迎します。



# 会社をあげてより良いサービスを行う仕組みの構築

	STAGE1	STAGE2	STAGE3	STAGE4
プロジェクトA	<b>【ヒアリング】</b> コミュニケーションシートの内容分析、社内ヒアリング、農家さんヒアリングを実施する。	<b>【マニュアル策定】</b> ヒアリング結果をもとに、顧客情報を管理するシート・社内連絡フローを創案し、運用マニュアルを策定する。	<b>【マニュアルのテスト運用】</b> 運用(情報管理フロー)マニュアルをテスト運営し、使用者からフィードバックをもらう。	<b>【社内報告会】</b> マニュアルおよび運用事例について社内報告会を実施する。
プロジェクトB	<b>【アプリの制作】</b> コミュニケーションアプリを農家さんと通信する通信アプリを試作・制作する。	<b>【テスト運用】</b> 社員や農家さんにアプリを使って頂き、フィードバックをもらい、改善する。	それに応じて、アプリ、およびマニュアルを改善する。	

## GOAL (到達目標/成果物)

- ・農家さんとのコミュニケーションアプリの開発・改善
- ・理想の情報管理フロー・体制のマニュアル化
- ・マニュアルの実施
- ・社内報告会の実施を通じたマニュアルの共有

## NEXT STEP

「新時代の農業サービス・サポート体制の構築」を考察・実施し、日本の農業界の発展に寄与するとともに、社内では、既存顧客からの情報を元に新規顧客向のパターンも確立し、OODAで対応可能な組織となっていくことを目指す。

# 挑戦する学生へのメッセージ

## <受入担当者>

営業部 営業課課長  
安藤 雅也



このプロジェクトでは農家さんからの弊社製品野菜苗に対する評価を元に品質改善、社内環境整備を実施し、農家さんへのサービス向上をはかることを目的としていますが、どのように野菜を栽培しているか、どういったことに困っているかということにまで積極的に踏み込んでいくと農業を取り巻く環境や今後の展望まで見えてくるでしょう。

農業界を学ぶいい機会になるでしょうし、また、プログラミング能力の向上もはかれると考えています。

## <ドン (学内メンター)>



徳島大学  
生物資源産学学部  
講師  
橋本 直史

現代の農業を支える”縁の下”の力持ち”的な存在である竹内園芸様は、徳島県の農業に欠かせない存在です。2年目となる今年度のプロジェクトは、顧客である農家とのコミュニケーションの充実、およびICTの有効活用の両立です。ICTを用いて農業の抱える課題を解決することに関心のある学生さんは積極的に参加して下さい。



徳島大学 情報センター  
ICTサービス部門蔵本分  
助教  
谷岡 広樹

こんにちは！竹内園芸さんといっしょに、コミュニケーションアプリを開発することになった谷岡です。農業×ITで、企業と顧客、生産者と消費者をつなぐ革新的で実用的なアプリの実現を目指します。実際のユーザーの意見も聞きながら「ものづくり」が体験できる、またとない機会です。インターンの学生のみなさんといっしょに、楽しくアプリのデザインやプログラミングをしたいと思っておりますので、是非ご応募ください。

## プロジェクトに取り組むことで身につく力



社会人基礎力のほか、プロジェクト企画立案能力、企画書制作能力、情報管理構築能力、農家さんへの導入時にはコミュニケーション能力、webデザイン・プログラミング開発能力、チーム内でのコミュニケーション能力を身に付けることができます。

# 地域に誇りと元気をもたらす観光戦略



一般社団法人イーストとくしま観光推進機構  
徳島県徳島市寺島本町西1丁目61 徳島駅クレメントプラザ5F

## どんな会社？

私たちは、現在全国に候補法人も合わせて223団体ある“日本版DMO”のひとつで、徳島県東部圏域15市町村を対象エリアに「観光消費額の増加による地域経済の活性化」と「地域に対する住民の愛着や誇りの醸成」の2つのミッションの元、様々な観光振興に関わる課題解決や施策を、データに基づき官民協働で推進する事を目的に2018年3月に設立された団体です。

近年、人口減少・少子高齢化に直面する日本の最重要課題である「地方創生」において、観光振興は 交流人口を拡大させ、経済効果をもたらす地域を活性化する原動力として期待されています。国は「明日の日本を支える観光ビジョン」において、訪日外国人旅行者数を2020年に4000万人、2030年に6000万人にすることを目標に掲げるなか、2018年は訪日外国人旅行者数が“過去最高の3,119万人となるなど、インバウンド観光が飛躍した一年となりました。さらに、2020年に開催の「東京オリンピック・パラリンピック」に向け、国を挙げて観光産業を日本の基幹産業に育てることで、観光を軸とした外貨獲得による国全体での経済活性化へ大きな好機を迎えています。

このような状況のもと、この徳島東部地域においても、「吉野川」、「鳴門の渦潮」、「阿波の土柱」など雄大で豊かな自然や、「阿波おどり」、「お遍路」、「阿波藍」、「阿波人形浄瑠璃」をはじめとする歴史・文化など、独自の魅力的な地域資源を観光地経営の視点に立って活用し、国内外からの観光客誘致の取組みによる地域活性化が期待されています。

こうした取組みを進めるため、徳島東部地域の官民が一体となり、地域の「稼ぐ力」を引き出す観光地域づくりを推進するための「DMO」(Destination Management/Marketing Organization)を設立し、多様な関係者と合意形成を図りつつ、明確なコンセプトに基づいた戦略を着実に実施しております。

## チャレンジしていることは？

近年、日本の訪日外国人は増加の傾向にあり、2030年には倍増する計画がなされています。そんな中、有名な観光地を見終えたりピーターたちは、日本の原風景や食文化を体験できる観光コンテンツを求め、地方へと足を延ばす傾向にあります。

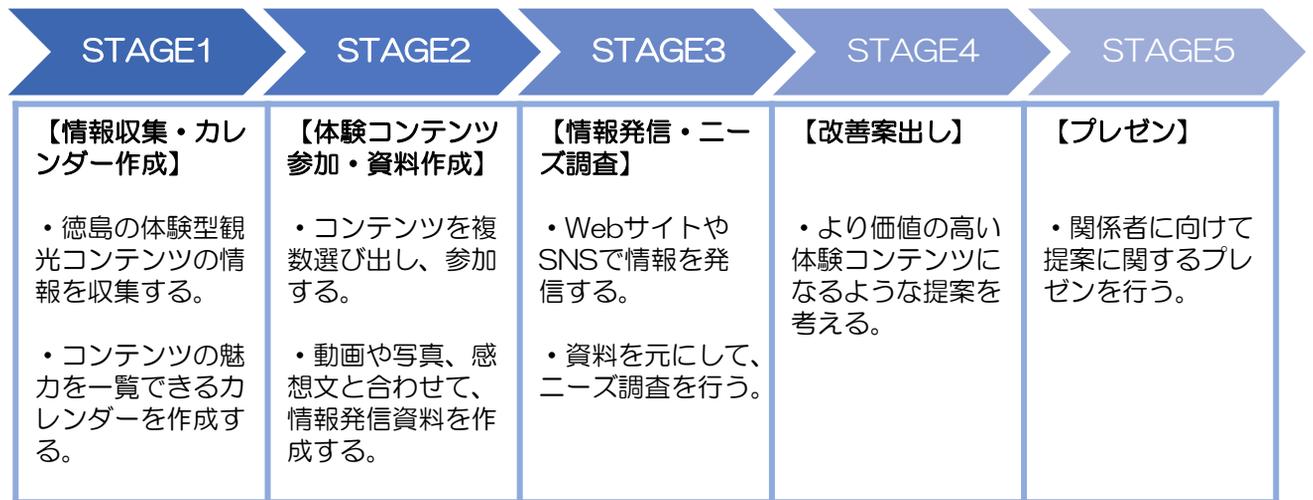
我々の徳島県東部圏域での観光消費額を伸ばすために、“訪問客数”、“観光消費単価”、“滞在日数”の3つの指標を増加させる必要があります。それを実現する為には、様々な連携による“コンテンツ造成”“プロモーション・セールス”を戦略的に進めていく事が事業のコアとなります。

特に我々の役割分担として“外国人旅行者に選好される魅力的なコンテンツの開発・強化”と“ソフト面での受入環境整備”の2点を深耕する事が求められています。

本プロジェクトにおいては、体験型観光コンテンツの情報整理、また、コンテンツを実際に体験して頂き、それを通して見えたものを軸に、情報発信、およびニーズの調査を行って頂きます。



## 高付加価値の“体験型観光ツアー” 造成の為の情報整理



### GOAL (到達目標/成果物)

- 体験コンテンツのカレンダー作成 (50コンテンツ目標)
- 体験コンテンツ改善の為の提案 (3コンテンツ目標)



### NEXT STEP

旅行者の獲得に向けた官民協働の具体的な取り組みが始まる

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>

一般社団法人  
イーストとくしま観光推進機構  
専務理事  
勇 寿憲



「2040年 自治体の半数が消滅」(河合雅司著「未来の年表」より)という衝撃的な予測にあるよう、特に地方部では顕著に少子高齢化が進行しています。一方、昔から変わらない“山”“川”“海”には豊かな自然が多く残り、豊かな“農産物・海産物”が生産され、独自の文化を生み出した“徳島”は、都会では体験できない魅力的なコンテンツの宝庫です。

2018年訪日外国人は初めて3,000万人を超え、今後も拡大傾向と言われています。価格ではなく高付加価値で訪日外国人に選好されるコンテンツを多く造成し新たな産業としての観光の推進に関わってみませんか？

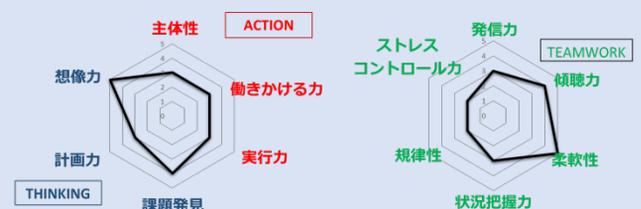
### <ドン (学内メンター)>

プロジェクトとは、期限内に複数のメンバーで独自の成果を生み出すことです。プロジェクトを経験することで普段の講義では学べない社会人として必要な能力が確実に身につきます。プロジェクトでは正解のない課題に取り組むことになるので多くの困難に遭遇します。行き詰ったときに気軽に相談できる頼りになるドンとして振舞います。プロジェクトの進行を見守りつつ、時には一緒に知恵を絞りますのでよろしくお願いいたします。



徳島大学大学院  
社会産業理工学研究所  
理工学域講師  
日下一也

### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力リーダーチャート>



# 「きゅうりタウン構想」の実現により 地域を活性化せよ

徳島県南部総合県民局 農林水産部 <美波>  
徳島県海部郡美波町奥河内字弁才天17-1

## どんな会社？

徳島県南部総合県民局農林水産部（美波農業支援センター）では、過疎高齢化による農業・農村の弱体化に対して、以下の三本の柱で対応しています。

- ①「人づくり活動」：新規就農者や青年農業者などの農業の若い担い手の育成。
- ②「物づくり活動」：キュウリ、オクラなどの産地の拡大支援。
- ③「地域づくり活動」：地域営農のシステム化や鳥獣被害対策への取組み支援。

当管轄エリアである海部郡の特産「促成きゅうり（冬春きゅうり）」は、全国的にも栽培技術が高く、70年の歴史を持つブランド作物です。しかし、過疎化と高齢化による担い手不足で、生産農家はピーク時の4分の1程まで減少してしまいました。

そんな中、きゅうり産地の再生・担い手の育成・移住就農者の受け入れを旗印に、平成27年に当庁を含む多機関が連携し、「きゅうりタウン構想」を立ち上げました。これは、就農者を増やすことにより、促成きゅうりの一大産地をつくり、地域活性化を目指すものです。



## チャレンジしていることは？

きゅうりタウン構想実現を目指して、以下のような取り組みを行ってきました。

### (1) 推進組織の設立

当庁、海部郡3町及びJAかいふで構成する推進組織「海部次世代園芸産地創生推進協議会」を設立しました。

### (2) 「海部きゅうり塾」の開設

新規就農者を育成する担い手育成システムとして「海部きゅうり塾」を開設しました。農業基礎知識および実践スキルの習得を目指した1年間のカリキュラムを提供しています。

### (3) 次世代園芸施設団地の完成

地元農家のもつ「匠の技」とオランダ型の先進技術を融合させた次世代園芸施設（実験ハウス）を設置し、次世代園芸技術の確立に取り組んだ結果、平成29年度に2経営体、平成30年度に4経営態が、経営を開始し、約1ヘクタールの次世代園芸施設団地が完成しました。

### (4) 県外への情報発信

SNS、テレビCM、YouTube等を活用した情報発信を行っています。

現在、これらの取り組みのさらなる発展・継続のために、新しい対象者に魅力を発信し、きゅうりタウン構想のさらなる推進を行っています。



# きゅうりタウンの魅力を発信するプロジェクト 「求む！海部きゅうり塾生」



## GOAL (到達目標/成果物)

- ・「海部きゅうり塾」入塾応募者が増加する広報方法の策定、広報ツールの作成
- ・庁内プレゼンテーションの実施



## NEXT STEP

- ・「海部きゅうり塾」入塾生が増える
- ・キュウリ栽培の担い手が増える
- ・海部エリアの農業がもっと元気になる

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>

海部プロジェクト  
主査兼係長  
原田正剛



「きゅうりタウン構想」は地域農業のリノベーションを行う取り組みです。「きゅうりタウン構想」に魅力を感じて、都会から移住しキュウリ栽培に取り組む生産者は、海部地域の暮らしを楽しむとともに、他の地域では事例の少ない新しい技術「養液栽培」に挑戦しています。このプロジェクトを通じて、地域農業を元気にしたいという仲間に出会えることを楽しみにしています。

### <ドン (学内メンター)>

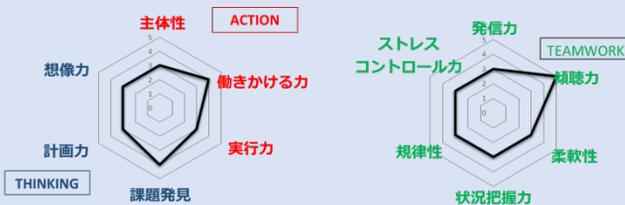
四国の右下にあります海部エリアで作られるきゅうりは高度な栽培技術で作られるブランド品で、品質の良さから産業的な競争力も高い逸品です。近年、高齢化や人口減少による担い手不足から生産農家が減少し、新規就農者が必要とされています。本プロジェクトでは新規就農者育成のための「海部きゅうり塾」の入塾希望者を増加させるための広報ツールの作成および検証を目的としています。一緒に斬新な広報ツールを作成して、きゅうりタウンの魅力をアピールしましょう！



徳島大学大学院  
社会産業理工学研究所  
生物資源産業学域  
助教

後藤 優樹

### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>





～公共財としてホームタウンの活性化に貢献する～

徳島ヴォルティス 株式会社  
徳島県板野郡板野町犬伏字瓢谷2番地22

## どんな会社？

2004年9月に設立され今年で15年目を迎える「徳島ヴォルティス株式会社」は、徳島県、ホームタウンの各自治体、大塚製薬グループをはじめとする県内企業・団体などが出資して運営されています。ホームスタジアムは鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム、練習場は本社のある徳島スポーツビレッジです。チーム名称の「ヴォルティス」(Vortis)とは、イタリア語で渦を意味する「Vortice」(ヴォルティーチェ)をもとにした造語である。前身の実業団大塚製薬サッカー部を引き継いで設立されたヴォルティスというチーム名は「豪快な鳴門の渦潮のように、パワー・スピード・結束力を兼ね備え、観客を興奮の渦に巻き込むチーム」を目指すことをモットーに名付けられた。

本事業の主体である徳島ヴォルティス株式会社は

- 1) 県民・企業・行政三位一体による運営
- 2) 身の丈にあった経営
- 3) 県民に愛され、地域の誇りとなるチームづくり

これら3つのコンセプトを基に県内各地(ホームタウン)において様々な地域貢献活動を行っています。(Jリーグでは、Jクラブの本拠地を「ホームタウン」と呼んでおり、「Jクラブと地域社会が一体となって実現する、スポーツが生活に溶け込み、人々が心身の健康と生活の楽しみを享受することができる町」を意味しています。)徳島ヴォルティスでは社内にホームタウン推進部を設置し、スポーツを通じた地域の活性化に取り組んでいます。

徳島ヴォルティスは、サッカーを通して地域の方々とコミュニケーションをとりながら、地域の方々と共に楽しみ、遊び心も大切にしながら、熱狂のスタジアムを中心として「する」「観る」「支える」と多様なスポーツを楽しめる環境を創造し、徳島の元気の象徴となることをビジョンとして、「夢」と「感動」を提供することで徳島の活性化に貢献することをミッションとしています。

## チャレンジしていることは？

**「Jクラブと地域社会が一体となって実現する、スポーツが生活に溶け込み、人々が心身の健康と生活の楽しみを享受することができる町」を創出する**

徳島ヴォルティスホームタウン推進部では、県内の行政(自治体)や民間、幼稚園や小学校に選手やスタッフが出向し地域の方々とサッカー教室や巡回指導、 Mascotによるイベントへの参加などスポーツを通じた地域の活性化に取り組んでいます。

地域では少子化高齢化はもとより、健康の問題、地震や災害への備え等に関する課題、地域内のコミュニティの弱体化が一因とも言える様々な問題が内包されています。

そうしたなかで、私たち徳島ヴォルティスだからこそできる問題や課題の解決、そして地域の活性化に繋がるサポートを今後もより広く、深く、継続させていきたいと考えています。

この主題に対するアプローチとして

- ① 幼稚園、小学校の子どもたちを対象にスポーツの楽しさや面白さを伝え、心と身体の育成を図るための巡回サッカー教室
- ② 子どもたちに未来への夢や希望を持ってもらうためのJリーガー派遣
- ③ 障がいを持つ方々にチャレンジすることや学ぶことの意欲を発露していただき、人との繋がりから社会復帰や自立を図る機会を創るためのサポート
- ④ 一般、シニア層を対象にした運動不足解消、健康寿命増長のためのサッカー教室
- ⑤ 自治体、企業との連携による健康街づくり事業…などを行っています。

ながらスマホは  
レッドカード!



徳島県警察・徳島県自転車警察団  
徳島ヴォルティス株式会社



## 新たな若年ファン層を開拓せよ

### 第1節

#### 【情報収集】

徳島ヴォルティスの魅力や会社が地域に求められているニーズ等をファン、ボランティアや県内自治体等にヒアリング調査を実施する。

### 第2節

#### 【情報分析とアプローチ方法策定】

調査結果を基に、これまでに無い若年ファン層拡大に向けたアプローチ方法を策定する。

### 第3節

#### 【プロモーション実施及び検証】

策定したプランを遂行し、効果測定を行い、ファン層拡大に向けた新たなプランを提案書にまとめる。

### 第4節

#### 【成果報告会】

関係者を招集し、今回の案件についてプレゼンテーションを行う。

### GOAL (到達目標/成果物)

- ・ 若年層ファンを増やすための新しい取り組みが具体的に策定されている状態が創出される。
- ・ 徳島ヴォルティスの魅力が新しい視点で可視化され、社内に周知されている。

### NEXT STEP

- ・ 新しいファン層に向けたアプローチが為される。
- ・ 新しいファン層及びその周辺との地域活性化に関する取り組みに着手できるようになる。
- ・ これまでになかったステイクホルダーとの協業が展開できるようになる。

## 挑戦する学生へのメッセージ

### <受入担当者>

徳島ヴォルティス  
株式会社  
ホームタウン推進部  
JFA公認A級ライセンス

柘植 竜治

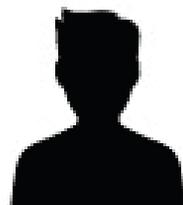


この度はインターンシップに参加して頂けるという事で、私達クラブにとっても凄く心強いです。皆さんが考える、アイデア、工夫、戦略などを一緒になって学び、現実に行えるようにしていきたいと考えています。是非、わくわく、ドキドキした気持ちで徳島県のプロサッカークラブ（徳島ヴォルティス）でインターンをしてみませんか？

私達の仕事は、皆さんが笑顔になって頂けるように考えるお仕事です。決まりきったことを黙々とやるのではなく、今皆さんに何が必要で何が大切なのかを観察し、考え、行動していきます。恥と汗をかきながら楽しんでいきましょう！

### <ドン（学内メンター）>

Coming Soon...



### <プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力リーダーチャート>



# 新しい視点で

# もっと“まち”を元気に



阿波おどりを楽しもう

## 阿波おどり会館

一般社団法人 徳島新聞/阿波おどり会館

徳島県徳島市中徳島町2丁目5-2

## どんな会社？

徳島新聞社は朝刊、夕刊を発行し、地元ニュースから世界各地のニュースまで幅広くお届けしています。県内外に取材拠点（支局）を多数設置し、多くのスタッフの力と情報の集結によって新聞を作っています。

また、新聞発行だけではなく、広く地域密着の文化、スポーツ、健康増進事業を展開し、地域振興に貢献するのも新聞社の大切な業務として行なっています。徳島駅伝、はな・はるフェスタ、おぎゃっと21などの主要事業に取り組んでいます。

昨年度からは、公の施設を運営する「指定管理事業」にも携わっています。阿南市の文化施設「夢ホール」「コスモホール」、阿波市の「アエルワ」、そして今回の当該インターンシップの主題となる徳島市の「阿波おどり会館」の運営を始めました。県内広域に文化発信拠点をもつことで、イベントの共同開催によるコスト削減を図りつつ、より多くの県民の皆さまに文化事業を提供しています。これらの拠点を中心に、地域の魅力を高める活動にも力を入れています。



## チャレンジしていることは？

徳島新聞社は共同事業体の一つとして、昨年度(2018)から阿波おどり会館の指定管理業務に携わっています。

阿波おどり会館は、徳島市が誇る伝統芸能・阿波踊りの魅力を広く伝えることを目的とした観光施設で「世界中の人々に一年中、阿波おどりを楽しんでいただきたい」と、平成11年（1999）7月に徳島市のシンボル・眉山の麓にオープンしました。

この施設は、徳島駅からのシンボルロード上にあり、眉山山頂への起点ともなっています。会館内にはロープウェイ山麓駅、阿波おどりミュージアムや阿波踊りの公演が行われるホール、阿波踊りに関する情報発信・観光スポットの紹介などを行うメディアスクエアがあり、阿波踊りを楽しむための施設やサービスが充実しています。また1階には徳島県物産観光交流プラザ「あるでよ徳島」が設置されており、多くの土産物や特産品を取りそろえています。また、エントランス近くの案内コーナーでは県内の観光情報も入手できるようになっています。

会館の業務には、阿波おどり会館及び周辺の情報発信と魅力向上が含まれます。阿波おどり会館の機能をさらに充実させ、市内の街歩きや街中の飲食案内といった情報発信基地にすることはもちろんのこと、より多くの皆さま（特に年齢層の若い方、海外の方）に徳島へお越しいただき、徳島の魅力に触れてもらえるよう阿波おどり会館及びその周辺地域を中心としたこれまでとは違った視点からのアプローチによる地域の活性化に取り組みたいと考えています。



# ランドマーク阿波おどり会館及びその周辺区域の 遊び方・楽しみ方・活用方法を新たな視点で考察・検証する

STAGE1

STAGE2

STAGE3

STAGE4

【情報収集・探索】	【仮説立案】	【実証実験と効果測定】	【報告会の実施】
<p>阿波おどり会館及びその周辺区域の街歩きと来訪者インタビューを行う。</p> <p>リサーチ結果をマッピングする。</p>	<p>マップを基に阿波おどり会館の新しい活用方法や楽しみ方を考察する。</p> <p>阿波踊りの新たな楽しみ方や価値を考察する。</p>	<p>考察内容の実証実験及びその成果に対する効果測定を行う。</p> <p>またその結果を基に今後についてのレポートと提案書を作成する。</p>	<p>活動経緯と提案書に関しての関係者に向けて報告会を開催する。</p>

GOAL (到達目標/成果物)

- ① 阿波おどり会館及びその周辺区域における新たな価値が具体的に可視化されている
- ② 阿波踊りのこれまでにない魅力的な視点、楽しみ方や関わり方が提案されている



NEXT STEP

阿波おどり会館を起点にこれまでとは違った形の新しい観光及び県民にとっての使い道が創発される阿波踊りの新たな価値を新たなPR方法(視点)として提示できるようになる

## 挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

徳島新聞社  
事業局 地域連携推進室  
橋本 真味



私たちと一緒に地元の魅力を見つめ直し、多くの人に発信してみませんか。「人に分かりやすく伝える」というスキルは、社会人にとって非常に大切です。コミュニケーションを良好にするだけでなく、事業を拡大させたり成功に導いたりすることにもつながります。インターンを通し、皆さんのスキル向上につながるようにサポートします。そして、徳島をもっと好きになっていただくと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

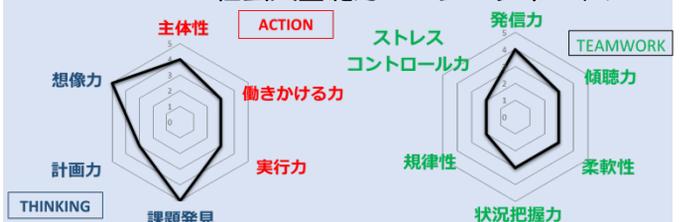
<ドン (学内メンター)>

2年前にも徳島新聞社様との寺子屋式インターシップ課題においてドンとして関わりました。決して満足できる成果は得られなかったものの、参加した学生は最後まで懸命に取り組み、人として大きな成長を遂げました。そのとき経験した数々の反省を活かし、プロジェクトに関わるすべての者が満足できるような結果が得られるよう影ながら支援していく所存です。困ったときに気軽に相談できる頼りになるドンとして振舞います。



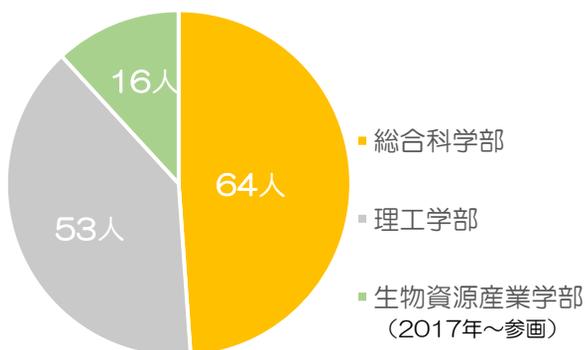
徳島大学大学院  
社会産業理工学研究所  
理工学域講師  
日下一也

<プロジェクトに取り組むことで身につく  
社会人基礎力レーダーチャート>



# 実践力養成型(寺子屋式)インターンシップ 3年間の軌跡

2016年～2018年の3年間で、のべ133名の学生が計37プロジェクトに取り組みました。



これまでの参画企業・団体 (順不同)

大塚テクノ(株)/(一社)徳島新聞社/(株)あわわ/(株)QLiP/(NPO)マチトソラ/(有)榎山農園/徳島大学上勝学舎/(株)松本コンサルタント/港産業(株)/徳島大学大学院社会産業理工学研究部/(株)テレコメディア/徳島県赤十字血液センター/(株)ネオビエント/廣間組(有)/(一社)Disport/徳島トヨタ自動車(株)/アール・エスホーム(株)/(一社)大学支援機構/喜多野安心市/徳島県農林水産部水産振興課/(株)AWA-RE/(公社)徳島県建築士会/(有)竹内園芸/エヌ・アンド・イー(株)/(株)基/(株)NDK/四国放送(株)

## インターンシップ活動SNAP (インターンシップフェア～エントリーまで)



# インターンシップ活動SNAP (入社式～振り返り会まで)

入社式

現地視察

[WBS]ワールドビジネスサテライトほか、多数のメディアに取り上げられました。

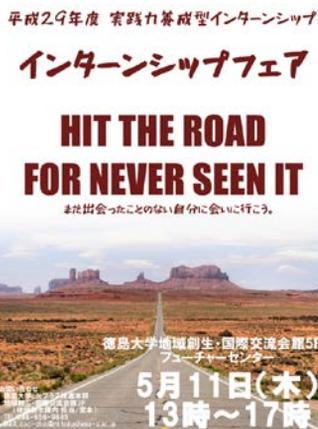
2016年度



中間報告会

現地活動

2017年度



最終報告会

振り返り会

平成30年度 実践力養成型(寺子屋型)インターンシップ インターンシップフェア

2018年度





2019年4月24日  
徳島大学COCプラス推進本部

お問い合わせ・エントリーシート提出先

---

**徳島大学COCプラス推進本部**

徳島大学常三島キャンパス内 地域創生・国際交流会館3階(地域創生課内)担当:川崎/森脇/安井  
TEL:088-656-9888 FAX:088-656-9880 MAIL:coc-plus@ml.tokushima-u.ac.jp